

Kitami
Institute of
Technology
Center for Regional Community

CRC

Connect ?

 CRC
Center for Regional Community

国立大学法人 北見工業大学 社会連携推進センター CRC

年報 第13号 平成26年度

<http://www.crc.kitami-it.ac.jp/>

社会連携推進センター一年報目次

【巻頭言】

～地域とともに～

社会連携推進センター長 川村 彰

1. 平成 26 年度活動状況

1) 事業計画及び事業報告

平成 26 年度 事 業 計 画	1
平成 26 年度 事 業 報 告	3

2) 運営組織

スタッフ	6
客員教授	6
産学官連携推進員	8
産学官連携推進協力員	8

3) 共同研究等

共同研究・受託研究報告	10
共同研究の推移	11
共同研究受入一覧表	12
共同研究概要	18

4) 産学官連携活動

交流イベント等出展状況	27
-------------	----

5) 知的財産活動実績

発明届出・国内特許出願・国内登録特許件数	40
----------------------	----

6) 第 26 回国立大学法人共同研究センター長等会議

「工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業」(改称)第 9 期の実施	42
-------------------------------------	----

7) 地域再生人材育成プログラムの推進

「工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業」(改称)第 9 期の実施	42
-------------------------------------	----

8) 各種会議報告

活動日誌	52
------	----

2. 付録

- ・センター関連規程
- ・技術相談申込書

【卷頭言】

～地域とともに～

社会連携推進センター長
(社会環境工学科 教授)

川 村 彰



地域共同研究センターを社会連携推進センター（以下、CRC）と改称してから、早いもので3年目を迎えました。CRC活動も皆様のご協力により、徐々にではありますが、今までとは違った産学官連携の成果が表れてきているように思います。

近年、「地域」がキーワードとなる話題やニュース、新聞等の報道が一段と目に付くようになってまいりました。地域創生、地域活性化、地域振興、地域おこし、地域人材育成、地域イノベーション、地域情報化、地域資源、地域医療、地域力再発見、地域交流、地域防災等々。これらは地域を活気づけるものが多く、地域重視の発想や政策が我が国の将来発展に欠かせず、高い社会的関心を呼んでいることの表れと思われます。

折しも、第26回国立大学法人共同研究センター長等会議（以下、センター長等会議）が本学を当番校として開催されました。本会議は、全国の国立大学において、産学官連携活動を円滑に運営するための情報共有、意見交換の場として毎年開催されています。

この度のセンター長等会議でも、地域特性を考慮した産学官連携活動など「地域」についてのテーマが取り上げられました。総括として「地域社会における使える大学が地方大学の産学連携評価では重要となり、……、地域共同研究センター等は地域（社会）に無くてはならないCOI・COCとしての大学実現に向け、パイロット的存在として今後も重要性を増していく（一部抜粋）」と報告されました。

本報告は、本学CRC活動の将来を考える上で大変貴重な参考となりました。地域との絆を深め、地域とともに歩み、未来を切り開く大学、その窓口となるセンターとして、改めて地域と一体となった産学官連携活動の重要性を再認識した次第です。センター長等会議については、本年報に詳しく掲載しておりますので是非ご覧ください。

最後となりましたが、この度のセンター長等会議の実施に際しましては、多くの皆様にご協力いただき、会議を滞りなく終えることができました。これまでご支援・ご協力を賜りました方々に厚くお礼申し上げますとともに、今後ともさらなるご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

1. 平成 26 年度 活動狀況

1) 事業計画及び事業報告

平成 26 年度事業計画

1. 共同研究等の推進

- 中期計画に基づいた共同研究の推進
- 科学研究費助成事業等から発生した研究シーズの普及と地域ニーズの発掘
- 地域ニーズから研究シーズへと繋がる活動を推進
- 特任研究員の採用：菅原 宣義 共同研究等実施予定
- 特任教授の採用：大島 俊之 共同研究等実施予定
- 特任教授の採用：山岸 喬 共同研究等実施予定

2. 地域産業振興に向けた連携事業の推進

- 北見市产学官連携推進協議会の活動支援
 - ・北見ビジョンフォローアップ体制への協力
 - ・オホーツク产学官融合センターの事業支援
- 地域における知的財産に関する活動
 - ・产学官連携推進員協力員合同会議にて周知
- 札幌サテライトの活動推進
 - ・札幌サテライトでの技術士養成支援事業の協力
- イノベーション創出に関する事業
 - ・新技術、知的財産等の創出を推進
 - ・各省庁（農水省、国交省、経産省、総務省等）の施策に提案
 - ・学内研究ユニット等の活動を積極的に支援
- 教育事業（社会人、学生）への支援
 - ・地域産業への貢献を目的とした社会人の育成や学生教育を推進
 - ・人材育成事業、シンポジウム等を客員教授、関連機関との連携により推進
 - ・他機関が開催するセミナー等において、共催、後援の協力を推進
- 融合事業の推進
 - ・近隣大学、市町村、公設試、包括連携協定機関等との連携を強化
 - ・研究シーズの普及、学生の地域定着等を推進
 - ・地域研究会、产学官連携推進員協力員、包括連携協定機関等との事業を推進

3. 公開事業

- 客員教授によるセミナーの開催
 - ・本学総合工学Ⅱの授業として開講
 - ・広く一般市民にも開放
 - ・本年度も知的財産関係の客員教授を多く依頼する予定
- 知的財産関係 吉田 芳春（吉田国際特許事務所所長 弁理士）
各務 茂夫（東京大学教授 产学連携本部イノベーション推進部長）
三井 良一（元 JST 特許主任調査員）
舛井 一仁（芝綜合法律事務所弁護士 アースタック税理士法人グループ取締役）
末富 弘（北海道大学产学連携本部 知的財産部門長兼技術移転室長）
篁 悟（特許業務法人武和国際特許事務所）
- 技術関係 中西 幹育（㈱事業創造研究所代表取締役社長）
小山内 裕（㈱フジクラ顧問）
久村 春芳（日産自動車㈱ フェロー執行役員）

- 瓜生 敏之（東京大学 名誉教授）
二俣 正美 ((一社)北見工業技術センター運営協議会地域産業プロデューサー)
福地 博行 (株福地工業 代表取締役社長)
舟山 秀太郎 (株舟山組代表取締役 (有) 香遊生活代表取締役)
地域企業 2~3名（その他必要に応じた人選を予定）
- 上記以外のセミナー等開催、共催、後援
・産学官連携事業にかかるセミナー等
・国、道が行うセミナー等への協力
- 勉強会・研究会の開催
・学内研究会等との連携により開催

4. 社会連携推進センターの施設活用推進

- マネジメント工学コース学生による卒業論文活動
○インキュベーション機能の実施によるベンチャー企業支援
○産学官連携コーディネート機能維持・強化

5. 広報活動の推進

- サテライトの有効活用
○各種会議・パネル展への出展（地域のPRも積極的に行う）
・イノベーション・ジャパン大学見本市（東京）
・北洋銀行ものづくりテクノフェア（札幌）
・ビジネスEXPO（札幌）、オホーツク「木」のフェスティバル（北見）
・その他
○センター刊行物の発刊
・センタ一年報
・センターパンフレット
・センターホームページの充実
・大学の紹介資料作成
○各種新聞・雑誌等への掲載
○同窓会活動との連携による共同研究等の広報活動

6. 社会連携推進センター運営にかかる事業

- 北見工業大学社会連携推進センター推進協議会（北見市商工観光部主催）
○社会連携推進センター運営会議 月1回（学内）
○社会連携推進センターミーティング 週1回（学内）
○専任教員会議（全国）
○国立大学法人共同研究センター長等会議（全国）

平成 26 年度事業報告

1. 共同研究等の推進

○中期計画に基づいた共同研究の推進

- ・86 件（内訳：道外 46 件、道内 14 件、オホーツク圏 26 件）

○競争的資金等外部資金導入に係る提案に関する支援（JST A-STEP 事業、科学研究費助成事業等）

- ・JST A-STEP 事業のコーディネート 11 件実施（内 2 件採択）

○共同研究等の推進活動による、研究シーズの普及と地域ニーズの発掘、教育支援

- ・工農教育関係（1 件）、医工連関係（2 件）、地域振興関係（1 件）、ノウハウの開示（1 件）、教育支援（2 件）

○特任研究员の採用：菅原 宣義 共同研究分担者 1 件

○特任教授の採用：大島 俊之 共同研究代表者 1 件、共同研究分担者 1 件

○特任教授の採用：山岸 喬 共同研究代表者 3 件

2. 地域産学官連携事業の推進

○北見市産学官連携推進協議会の活動支援

- ・北見ビジョンフォローアップ体制への協力
- ・オホーツク産学官融合センターの事業支援

○地域における知的財産に関する活動

- ・産学官連携推進員協力員合同会議にて周知

○札幌サテライトの活動推進

- ・札幌サテライトでの技術士養成支援事業の協力

○イノベーション創出に関する事業

- ・経産省：「产学連携評価モデル・拠点モデル実証事業」自主調査継続、工農連携研究ユニットとの連携事業

- ・農水省：興部町提案にシーズ等コーディネート

- ・経産省：「ものづくり・商業・サービス補助金」コーディネート

- ・農水省：産業クラスター研究会イソップ・コリドール事業推進協議体提案コーディネート

- ・文科省：COC+申請企画

- ・国交省（開発局）：連携協定に基づく官学連携活動

- ・ノーステック財団：事業への協力

○教育事業（社会人、学生）への支援

- ・学生による地域貢献活動の推進（マネジメント工学コースを中心として）

- ・美山小学校、市町村イベントにおける科学実験教室等

- ・地域産業界との教育連携（現役社長の講話）

○工農教育継承事業

- ・北見市「工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業」=旧「新時代工学的農業クリエーター人材創出プラン（9 期）」、「地域を彩る食物語」（パラボ開催）

- ・公開講座の開催（社会連携推進センターの活動）

○融合事業の推進

- ・市町村訪問、オホーツク総合振興局内 1 回ずつ訪問

- ・産学官連携推進員協力員合同会議（10/28）にて各市町村から情報提供及び地域課題の抽出

- ・東京農業大学、帯広畜産大学との人材育成事業 3 大学合同セミナー（1/23～24）

- ・日本赤十字北海道看護大学、「オホーツク de あそぼうさい 2015」へオホーツク地域エネルギー環境教育研究会とともに開催協力（3/14）

- ・オホーツク産学官融合センター事務局会議にて公設試等と月 1 回開催、地域コアの併設

- ・産業クラスター研究会「麻プロジェクト」、「テレワークプロジェクト」、「イソッププロジェクト」

エクト」へ協力

- ・学生定着へ振興局内企業への広報活動により 4 名の定着に協力
- ・雪氷懇談会、オホーツク圏観光情報学研究会への協力
- ・北海道中小企業家同友会オホーツク支部との連携事業

○包括連携協定機関と事業の推進

- ・協定機関との連携事業の推進
- ・韓国江原大学と東京農業大学とのジョイントシンポジウムの開催(10/10)

○地域研究会等への協力

- ・北見市産学官連携推進協議会、ビジネスセミナー、(株)PVG ソリューションズ石川 直揮社長
- ・北見医工連携研究会「医工連携フォーラム」(2/9) 研究会構成員
- ・北見医師会「オホーツク医学大会」(3/21)、北見医師会「市民フォーラム」(2/21) 協力
- ・産学連携学会北海道支部シンポジウム共催(2/23)
- ・「シーズ・ニーズ マッチングフェア」(11/6~7 札幌) 共催
- ・オホーツク・テロワールセミナー(2/16) 協力
- ・「地域融合フォーラム」(1/27) 後援
- ・東京農業大学オホーツク実学センター「公開シンポジウム 2014」(2/21) 後援
- ・釧路公立大学北海道学生研究会 SCAN 「合同研究発表会」(12/13) 後援
- ・北見市雇用創造協議会事業「宮内庁御用達料理人のアイディアで、北見の食材を全国へⅡ」(11/29) 協力

○地域産業関連イベントへの協力

- ・オホーツク「木」のフェスティバルへの参加(5/16~18)
- ・オホーツク流氷科学センター「紋別わくわく科学教室」への協力 (7/20)
- ・北見ぼんちまつり「舞踊パレード」への参加 (7/18)
- ・オホーツクまるごと市 (7/19~20 網走)
- ・ふるさと産業まつり (9/7)
- ・地域を彩る食物語 (東京農業大学、日本赤十字北海道看護大学等全国の大学から出展) (1/14~19)
- ・その他、オホーツク管内市町村のまちおこしイベント多数参加

3. 公開事業

○本学「総合工学Ⅱ」の授業として開講

- ・広く一般市民にも開放した。

知的財産関係 吉田 芳春 (吉田国際特許事務所所長 弁理士)

舛井 一仁 (芝綜合法律事務所弁護士 アースタック税理士法人グループ取締役)

簗 悟 (特許業務法人武和国際特許事務所)

技術関係 小山内 裕 (株フジクラ顧問)

久村 春芳 (日産自動車株 フェロー 執行役員)

二俣 正美 ((一社)北見工業技術センター運営協議会地域産業プロデューサー)

福地 博行 (株福地工業 代表取締役社長)

舟山 秀太郎 (株舟山組代表取締役 (有) 香遊生活代表取締役)

地域関係 塚本 敏一 (北見市副市長)

○上記以外でも客員教授を多く依頼し、産学連携活動等にご協力をいただいた。

知的財産関係 各務 茂夫 (東京大学教授 産学連携本部イノベーション推進部長)

三井 良一 (元 JST 特許主任調査員)

末富 弘 (北海道大学産学連携本部 知的財産部門長兼技術移転室長)

技術関係 中西 幹育 (株事業創造研究所 代表取締役社長)

瓜生 敏之 (東京大学 名誉教授)

4. 社会連携推進センター公開講座

- 産学連携とは?～北見工業大学の社会貢献活動を知ろう～（12/4～5）

5. 社会連携推進センターの施設活用推進

- マネジメント工学コース学生による卒業論文・就職活動
- インキュベーション機能の実施によるベンチャー企業支援
- 産学官連携コーディネーター機能維持・強化のため、業務引継ぎ・指導の体制
 - ・産学官連携コーディネーターを継続配置

6. 広報活動の推進

- サテライトの有効活用
- 各種会議・パネル展への出展（地域のPRも積極的に行う）
 - ・イノベーション・ジャパン大学見本市（東京）
 - ・北洋銀行ものづくりテクノフェア（札幌）、・ビジネス EXPO（札幌）
 - ・全国高専テクノフォーラム（札幌）
 - ・アグリビジネス創出フェア（東京・札幌）
 - ・オホーツク「木」のフェスティバル（北見）
 - ・その他
- センター刊行物の発行
 - ・センタ一年報
 - ・センター概要
- 各種新聞・雑誌等掲載（北海道新聞等）
- 同窓会活動との連携による共同研究等の広報活動

7. 社会連携推進センター運営にかかる事業

- 北見工業大学社会連携推進センター推進協議会（事務局：北見市商工観光部）（4/16）
- 北見工業大学産学官連携推進員・協力員合同会議の開催（11/21）
- 社会連携推進センター運営会議 月1回（学内）
- 社会連携推進センターミーティング 週1回（学内）
- 専任教員会議（秋田大学）（8/28～29）
- 国立大学共同研究センター長等会議（北見工業大学）（9/25～26）

2) 運営組織

◆スタッフ

社会連携推進センター	センター長 社会環境工学科 (併任) 教 授	川村 彰
	センター教員 教 授	鞘師 守
	センター教員 教 授	有田 敏彦
	产学官連携コーディネーター	内島 典子
札幌サテライト	产学官連携コーディネーター	橘 邦朋
事務局	研究協力課 地域連携担当係長	松沼 拓夫
	事務補佐員	千葉 真希子

◆客員教授

氏名	現職名	職務内容	期間
瓜生 敏之	東京大学 名誉教授	・バイオ関連工学に関する指導等 ・アルコール発酵酵母に関する指導等	26.4.1~27.3.31
小山内 裕	株フジクラ顧問	・技術経営、技術管理、技術者倫理に関する指導、講演等	26.4.1~27.3.31
各務 茂夫	東京大学 教授 产学連携本部 イノベーション推進部長	・产学官連携事業に対する指導・助言等	26.4.1~27.3.31
久村 春芳	日産自動車(株)フェロー	・自動車の動力機構確信に関する講義等 ・研究管理、研究組織運営に関する指導等 ・大型产学連携に関する指導等	26.4.1~27.3.31
末富 弘	北海道大学产学連携本部 知的財産部門長兼技術移転室 長	・知的財産の評価、管理及び技術 移転に関する助言等 ・产学官連携に関する指導等	26.4.1~27.3.31
篁 悟	特許業務法人武和国際特許事務所	・知的財産権の管理・運用・技術 移転に関する支援等 ・特許等知的財産権に関する講演等	26.4.1~27.3.31

氏名	現職名	職務内容	期間
中西 幹育	㈱事業創造研究所 代表取締役社長	<ul style="list-style-type: none"> ・提案特許の評価・選別、知財戦略等 ・研究成果の事業化、社会貢献へのコミット、手法指導、講演等 	26. 4. 1～27. 3. 31
福地 博行	㈱福地工業 代表取締役社長	<ul style="list-style-type: none"> ・工学的教養に関する講義等、教員研究テーマのビジネスへの可能性探索 ・戦略的連携支援等 ・外部資金導入等に関する支援等 	26. 4. 1～27. 3. 31
二俣 正美	一般社団法人北見工業技術センター運営協会 地域産業プロデューサー	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産活動の推進・指導及び助言等 ・外部機関との知的財産に関する連携等 ・知的財産論・地域学に関連する講義等 	26. 4. 1～27. 3. 31
舟山 秀太郎	㈱舟山組 代表取締役 (有)香遊生活 代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・地域産業振興及び地域と建設関連企業の関係性についての研究及び助言等 	26. 4. 1～27. 3. 31
舛井 一仁	芝綜合法律事務所 弁護士 アースタック税理士法人グループ取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研究テーマの特許化と学内知財の国内外へのライセンス可能性探索 ・特許化支援に関する共同研究及び事例解説、手法指導等 	26. 4. 1～27. 3. 31
吉田 芳春	吉田国際特許事務所 所長	<ul style="list-style-type: none"> ・提案特許の評価・選別、知財戦略等 ・社会貢献へのコミット、手法指導等 	26. 4. 1～27. 3. 31
三井 良一	元 独立行政法人科学技術振興機構 特許主任調査員	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の知的財産の発掘、権利化、活用及び管理等 ・知的財産活動の推進・指導及び助言等 ・外部機関との知的財産に関する連携等 ・知的財産論・地域学に関連する講義等 	26. 4. 1～27. 3. 31

◆産学官連携推進員

北見商工会議所	オホーツク産学官融合センター長	加藤 裕実
独立行政法人中小企業基盤整備機構 北海道本部	北見オフィス所長	高橋 均

◆産学官連携推進協力員

一般社団法人北見工業技術センター運営協会	事業支援課長	進藤 覚弥
北海道立オホーツク圏地域食品加工技術センター	研究員	小林 秀彰
地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部 北見農業試験場	研究部長	中津 智史
北見市	商工観光部産業連携推進課 産学官連携担当係長	後藤 博幸
網走市	経済部商工労働課長	田口 徹
紋別市	商工労働課長	得永 恭志
置戸町	産業振興課長	坂口 博昭
訓子府町	農林商工課長	村口 鉄哉
佐呂間町	農務課長	平戸 光宏
津別町	産業振興課参事	横山 智
美幌町	経済部商工観光グループ 商工観光主幹	小室 秀隆
大空町	産業課参事	秋葉 暢康
遠軽町	経済部商工観光課長	伊藤 雅彦
斜里町	産業部商工観光課長	河井 謙
小清水町	産業課長	久保 弘志
湧別町	まちづくり推進課長	高山 照勝
興部町	産業振興課長	椎名 徹
雄武町	産業振興課長	横田 和幸
滝上町	まちづくり推進課 まちづくり推進係主査 (交替)まちづくり推進課 まちづくり推進係	遠山 豪 清原 尚弘
清里町	総務課主幹	本松 昭仁

西 興 部 村	産業建設課長	飯 束 亨
北 洋 銀 行 北 見 中 央 支 店	副支店長	館 入 義 弘
北 海 道 銀 行 北 見 支 店	副支店長	田 中 辰 男
北 見 信 用 金 庫	業務部課長代理	松 田 剛 一
網 走 信 用 金 庫	地域振興支援部長	川 畑 徹
遠 輕 信 用 金 庫	経営戦略グループ営業推進部門統括役	木 田 浩 司
日本政策金融公庫北見支店	支店長	成 塚 健 治
日本政策金融公庫旭川支店	融資課長	平 井 秀 和
国 立 大 学 法 人 帶 広 畜 産 大 学	理事・副学長	小 田 有 二
東 京 農 業 大 学 生 物 資 源 開 発 研 究 所	生物産業学部地域産業経営学科 助教	菅 原 優
日 本 赤 十 字 北 海 道 看 護 大 学	准教授	根 本 昌 宏
国 土 交 通 省 北 海 道 開 発 局 網 走 開 発 建 設 部	地域振興対策官	中 野 雅 充
北 海 道 新 聞 社 北 見 支 社		花 井 篤 志
公 益 財 団 法 人 北 海 道 科 学 技 術 総 合 振 興 セ ン タ 一	クラスター研究部長	工 藤 昌 史
網 走 測 量 設 計 協 会	副会長	益 村 公 人

◆産学官連携推進員・推進協力員合同会議オブザーバー

公益財団法人北海道中小企業 総合支援センター	経営支援部長	金 本 真 明
---------------------------	--------	---------

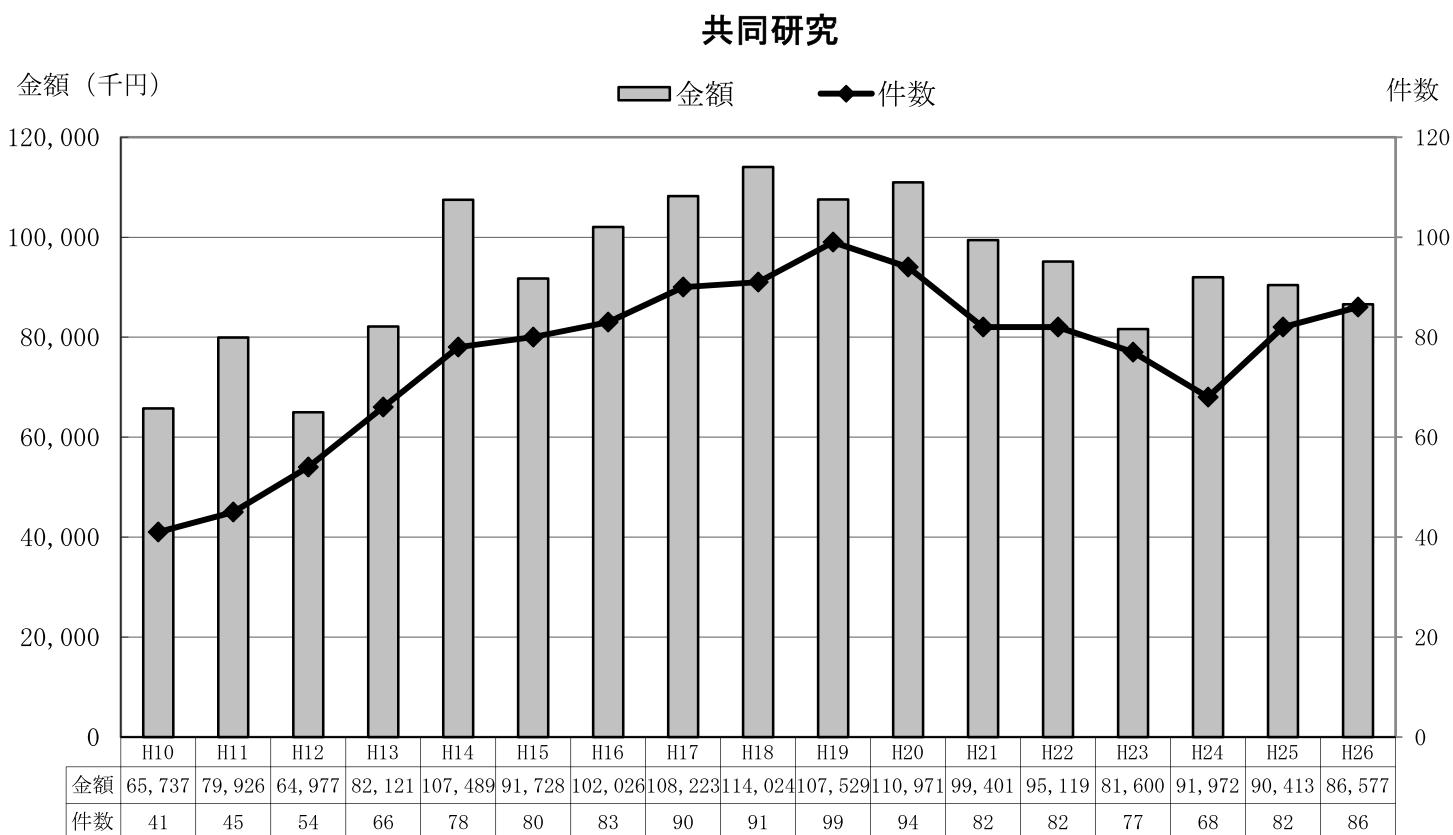
※ 産学官連携推進員・推進協力員について

地域との関係をより緊密にするために、周辺自治体から推進員・推進協力員を派遣していただいているいます。

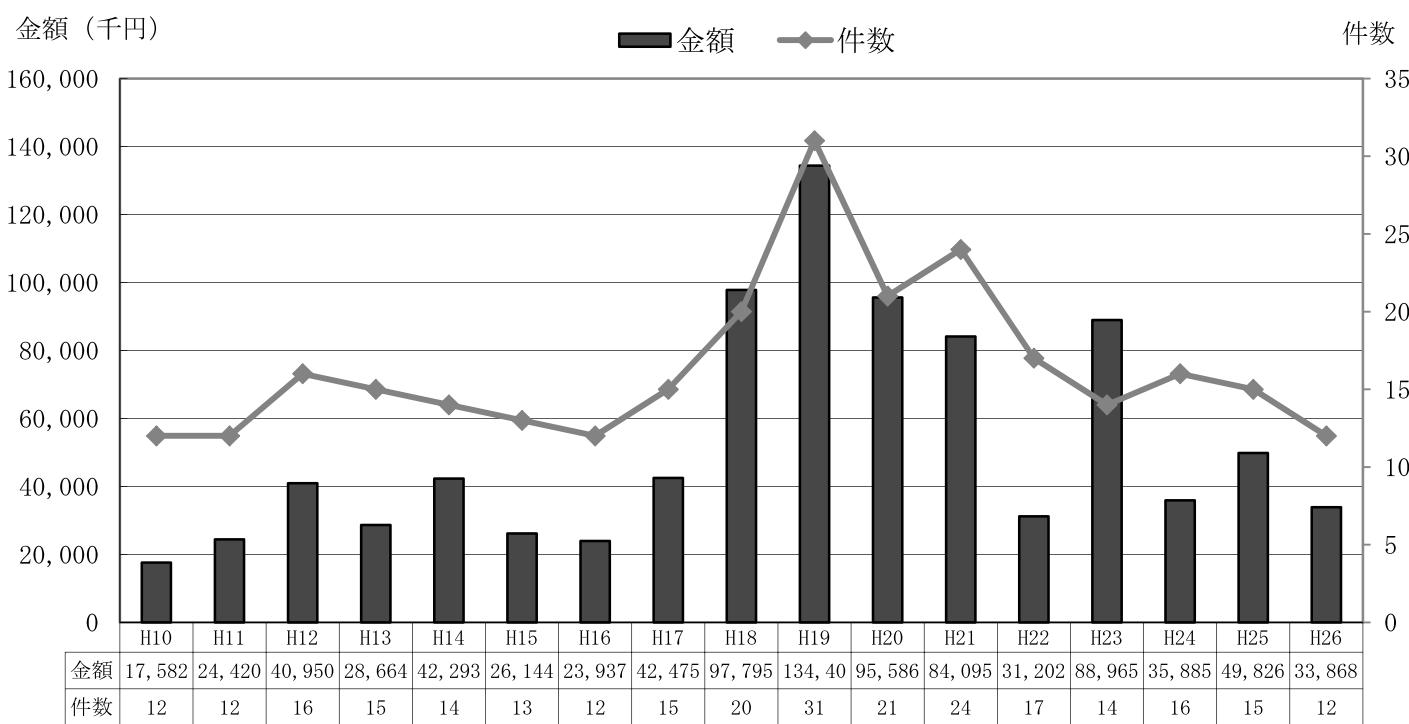
推進員・推進協力員の役割は、各自治体および産業界におけるニーズを円滑に大学へ伝えることで、産学官連携を推進することです。

3) 共同研究等

共同研究・受託研究報告（平成 10 年度～平成 26 年度）



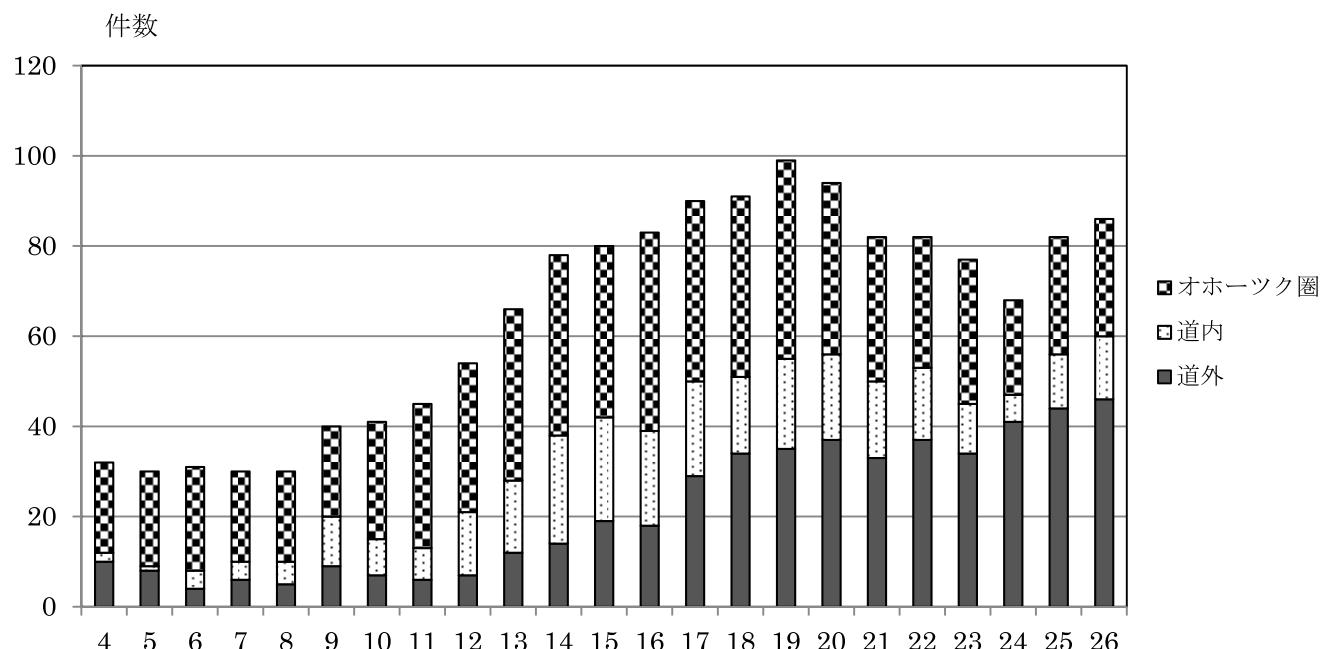
受託研究



北見工業大学 共同研究の推移

年 度 (平成)	道 外	道 内	オホーツク圏	総 件 数
4	10	2	20	32
5	8	1	21	30
6	4	4	23	31
7	6	4	20	30
8	5	5	20	30
9	9	11	20	40
10	7	8	26	41
11	6	7	32	45
12	7	14	33	54
13	12	16	38	66
14	14	24	40	78
15	19	23	38	80
16	18	21	44	83
17	29	21	40	90
18	34	17	40	91
19	35	20	44	99
20	37	19	38	94
21	33	17	32	82
22	37	16	29	82
23	34	11	32	77
24	41	6	21	68
25	44	12	26	82
26	46	14	26	86

【共同研究】オホーツク圏・道内・道外



平成 26 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研究代表者			研究題目	受入れ相手先 機関名
	氏名	所属	職名		
1	大島 俊之	社会連携推進センター	特任教授	社会基盤の維持・補修設計に関する技術支援制度構築に関する共同研究	網走測量設計協会
2	川村 彰	社会連携推進センター	センター長	着雪がいしのフラッシュオーバ機構解明と放電特性の検討	(一財)電力中央研究所
3	中村 大	社会環境工学科	准教授	積雪寒冷環境が土中埋設管に及ぼす種々の影響についての研究	北海道ガス(株) 技術開発研究所
4	小原 伸哉	電気電子工学科	教授	両面受光型太陽光発電システムに関する研究	PVG Solutions(株) (株)KITABA
5	川口 貴之	社会環境工学科	准教授	雪氷状態モニタリング技術の開発	岡三リビック(株) /東京インキ(株)
6	佐々木 正史	機械工学科	教授	環北極陸域システムの変動と気候への影響	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所
7	亀田 貴雄	社会環境工学科	教授	地球温暖化における北極圏の積雪・氷河・氷床の役割	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所
8	舘山 一孝	社会環境工学科	准教授	北極海航路の利用可能性評価につながる海水分布の将来予測	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所
9	大津 直史	機器分析センター	准教授	リン酸カルシウム被覆マグネシウム表面の表面特性に関する研究	(独)物質・材料研究機構
10	曾根 宏靖	情報システム工学科	准教授	ファイバレーザーによる超広帯域光の発生に関する研究	(独)産業技術総合研究所
11	川村 彰	社会環境工学科	教授	高速道路における走行快適性に関する共同研究	(株)高速道路総合技術研究所
12	柏 達也	電気電子工学科	教授	専用 EWS 上で稼働可能な実車大規模 FDTD 電磁界解析システムの開発	(株)本田技術研究所 四輪 R&D センター
13	井上 真澄	社会環境工学科	准教授	断熱塗料を被覆したコンクリートの凍害抑制効果の把握	水元建設(株)
14	有田 敏彦	社会連携推進センター	教授	ポリマーがいしの塩分付着特性に関する研究	東北電力(株) 研究開発センター /日本ガイシ(株) 電力事業本部 電力技術研究所

平成 26 年度 共同研究受入一覧表

受付番号	研究代表者			研究題目	受入れ相手先機関名
	氏名	所属	職名		
15	宮森 保紀	社会環境工学科	准教授	橋梁耐震補強用ストッパーの寒冷地適用研究	オイレス工業(株)
16	宮森 保紀	社会環境工学科	准教授	制震デバイスの低温下における性能評価に関する研究	(独)土木研究所 寒地土木研究所
17	大橋 鉄也	機械工学科	教 授	先端半導体デバイスにおける応力・転位解析とデバイスシミュレーションとの連携解析	学校法人五島育英会 東京都市大学
18	吉澤 真吾	電気電子工学科	准教授	海底資源探査・海底地盤モニタ用の水中大容量通信に向けた、通信信号で変調を受けたレーザー光の水中の伝搬特性と復調特性を調査するための甲乙丙丁四者の基礎実験に関する研究	(独)海洋研究開発機構/三菱電機特機システム(株)/ 三菱電機(株)情報技術総合研究所
19	吉澤 真吾	電気電子工学科	准教授	水中音響通信の最新動向および将来技術を想定したシミュレーション	三菱電機特機システム(株)
20	黒河 賢二	電気電子工学科	教 授	光ファイバへの入力パワー限界に関する検討	日本電信電話(株) アクセスサービスシステム研究所
21	大津 直史	機器分析センター	准教授	貴金属量低減水素分離膜の劣化原因解析	JX 日鉱日石エネルギー(株) 水素・FC研究所
22	有田 敏彦	社会連携推進センター	教 授	精神科病院のマネジメントに関する研究	医療法人社団拓美会玉越病院
23	吉澤 真吾	電気電子工学科	准教授	希土類添加透光性アルミナ多結晶体の創製	(独)物質・材料研究機構
24	館山 一孝	社会環境工学科	准教授	雪氷状態モニタリング技術の開発	(独)宇宙航空研究開発機構/ (株)センテンシア
25	川村 彰	社会環境工学科	教 授	帶状ガイドライトの設置が運転挙動に与える影響に関する調査研究	(株)ネクスコ・エンジニアリング東北
26	岡崎 文保	バイオ環境化学生科	准教授	高品質 CNT 合成のための合成条件検討・触媒設計	三恵技研工業(株) 赤羽工場
27	川村 彰	社会環境工学科	教 授	改良型 STAMPER II と FWD を組み合わせた"改良型舗装の評価システム"の補完	ティーアール・コンサルタント(株)

平成 26 年度 共同研究受入一覧表

受付番号	研究代表者			研究題目	受入れ相手先
	氏名	所属	職名		機関名
28	中山 恵介	社会環境工学科	教授	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	北見市
29	柏 達也	電気電子工学科	教授	電磁波測定環境における電磁波の反射、吸収の解析	E&C エンジニアリング(株)
30	川村 彰	社会連携推進センター	センター長	メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築	北見市
31	村田 美樹	マテリアル工学科	教授	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	美幌町
32	山岸 喬	応用研究推進センター	特任教授	常呂産ニンニク及びタマネギを用いた原料・製品の有用性に関する研究	日本製薬工業(株)
33	新井 博文	バイオ環境化学生科	准教授	常呂産ニンニク及びタマネギを用いた原料・製品の抗酸化活性に関する研究	日本製薬工業(株)
34	南 尚嗣	マテリアル工学科	教授	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	紋別市
35	羽二生 博之	機械工学科	教授	緊急車両遠隔支援システム開発	(株)ワーカム北海道
36	中山 恵介	社会環境工学科	教授	北見市環境調査研究(大気、水質、騒音、振動、臭気、ダイオキシン類)	北見市
37	川口 貴之	社会環境工学科	准教授	積雪寒冷環境における水道管の浅層埋設に関する研究	北見市企業局
38	田村 淳二	電気電子工学科	教授	電力系統-機器連成解析技術に関する研究	(株)日立製作所 日立研究所
39	中山 恵介	社会環境工学科	教授	常呂川水系水質調査研究	常呂川水系環境保全対策協議会
40	坂上 寛敏	マテリアル工学科	助教	斜里町における環境試料(下水汚泥・放流水)中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	斜里町
41	川村 彰	社会環境工学科	教授	STAMPER II 及び FWD の測定結果を用いた舗装の構造評価	大成ロテック(株)

平成 26 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研究代表者			研究題目	受入れ相手先 機関名
	氏名	所属	職名		
42	杉坂 純一郎	電気電子工学科	助教	境界要素法を用いた電磁波厳密計算に関する研究	(株)東芝 生産技術センター
43	堀内 淳一	バイオ環境化学科	教授	光触媒フィルターに関する研究	(一社)北見工業技術センター運営協会
44	伊藤 英信	マテリアル工学科	准教授	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	北見市企業局
45	岡崎 文保	バイオ環境化学科	准教授	廃プラスチック等のガス化メカニズムに関する研究	JFE スチール(株)
46	小原 伸哉	電気電子工学科	教授	積雪寒冷地用クリーン分散エネルギー電力制御システムの研究	リコー IT ソリューションズ(株)
47	川口 貴之	社会環境工学科	准教授	抗菌剤配合の暗渠パイプを用いた水酸化鉄の付着軽減可能性の検証	三井化学産資(株)
48	館山 一孝	社会環境工学科	准教授	廃トンネル内雪室の冷熱エネルギーを利用した農作物の貯蔵	オホーツク新エネルギー開発推進機構
49	宮森 保紀	社会環境工学科	准教授	橋梁維持管理におけるモニタリングデータの貯蔵と活用に関する研究	(株)豊水設計
50	川村 彰	社会環境工学科	教授	簡易 IRI 測定装置を利用した局部的な路面損傷評価手法の検討	(株)ネクスコ・エンジニアリング北海道
51	川村 彰	社会環境工学科	教授	簡易 IRI 測定装置を利用した路面プロファイル評価手法の検討	(株)ネクスコ・エンジニアリング北海道
52	岡崎 文保	バイオ環境化学科	准教授	北見発のメタン直接改質技術による水素・ナノ炭素併産及び持続的高度利用	オホーツク新エネルギー開発推進機構
53	鈴木 聰一郎	機械工学科	教授	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	(株)レクザム
54	南 尚嗣	マテリアル工学科	教授	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	北見市企業局
55	堀内 淳一	バイオ環境化学科	教授	下水汚泥の堆肥化に関する研究	北見市企業局
56	坂上 寛敏	マテリアル工学科	助教	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究	北見市企業局

平成 26 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研究代表者			研究題目	受入れ相手先 機関名
	氏名	所属	職名		
57	坂上 寛敏	マテリアル 工 学 科	助 教	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	北見市企業局
58	井上 真澄	社会環境 工 学 科	准教授	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	日産化学工業(株) 化学品事業部
59	武山 真弓	電 気 電 子 工 学 科	准教授	低温バリア絶縁膜に関する研究	(株)富士通研究所
60	林田 和宏	機 械 工 学 科	准教授	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善 －白煙、臭気に関する研究	いすゞ自動車(株)
61	中村 大	社会環境 工 学 科	准教授	積雪寒冷地における切土法面の凍上対策に関する研究	(独)土木研究所 寒地土木研究所
62	川尻 峻三	社会環境 工 学 科	助 教	改良土の強度・変形特性に関する研究	(公財)鉄道総合技術研究所
63	山岸 喬	応用研究推進 セ ン タ 一	特任教授	北見産ハマナス由来の芳香成分の抽出、分離および実用化	(株)ハーバー研究所
64	白川 龍生	社会環境 工 学 科	准教授	おんねゅ温泉・山の水族館 凍る滝の研究開発	果夢林ショップ運営協議会
65	富士 明良	機 械 工 学 科	教 授	新時代工学的素養を有する中核人材の育成	(一社)北見工業技術センター運営協会
66	石谷 博美	機 械 工 学 科	助 教	PCVガス除湿システム基礎研究	(株)ワーカム北海道
67	山田 貴延	機 械 工 学 科	教 授	潜熱蓄熱によるローエクセルギー活用の研究(小型蓄熱槽の研究)	北海道ガス(株) 技術開発研究所
68	川口 貴之	社会環境 工 学 科	准教授	表面波探査を用いた季節変化に伴う地盤剛性変化の把握	北見土木技術協会
69	川村 彰	社会環境 工 学 科	教 授	高速道路における走行快適性に関する共同研究	(株)高速道路総合技術研究所
70	高橋 理音	電 气 電 子 工 学 科	准教授	風車による系統制御技術の開発	(株)日本製鋼所室蘭製作所
71	佐藤 利次	バイオ環境 化 学 科	准教授	工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業との連携による商品化研究	(企)北見产学医協働センター

平成 26 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研究代表者			研究題目	受入れ相手先
	氏名	所属	職名		機関名
72	川村 彰	社会連携推進センター	センター長	地域材循環システム構築に関する研究	(企) 北見产学医協働センター
73	川村 彰	社会連携推進センター	センター長	工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業の効果に関する研究	(企) 北見产学医協働センター
74	杉坂 純一郎	電気電子工学科	助教	電磁波の厳密計算に関する研究	(株) 東芝 生産技術センター
75	宇都 正幸	マテリアル工学科	准教授	農業用資材梱包用ポリマーの耐寒性評価	ホクレン包材(株)
76	山岸 喬	応用研究推進センター	特任教授	道産農産物の機能成分の分析と商品企画	日生バイオ(株)
77	小原 伸哉	電気電子工学科	教授	積雪寒冷地用クリーン分散エネルギー電力制御システムの研究	リコー IT ソリューションズ(株)
78	鈴木 聰一郎	機械工学科	教授	スキーピーツのフットベッド用パーツの基本設計に関する研究	ブレイン(株)
79	前田 康成	情報システム工学科	准教授	エゾ鹿の有効活用および地産地消を目的としたレシピ開発	北見工業大学生活協同組合
80	中山 恵介	社会環境工学科	教授	自然環境が作り出すマリモの球化のメカニズムおよびその生態	日本放送協会釧路放送局/釧路市教育委員会
81	前田 康成	情報システム工学科	准教授	知識情報処理技術のヘルスケアへの応用	アドバンストヘルスケア(株)
82	吉澤 真吾	電気電子工学科	准教授	水中音響通信装置の実証検証	三菱電機特機システム(株)
83	大津 直史	機器分析センター	准教授	貴金属量低減水素分離膜の劣化原因解析	JX 日鉱日石エネルギー(株)中央技術研究所
84	三上 修一	社会環境工学科	教授	エポキシ樹脂系コンクリート補修材の寒冷地性能確認試験に関する研究	日本国土開発(株)技術センター
85	吉田 孝	バイオ環境化学生科	教授	無水二糖モノマーの開環重合と生物化学反応による抗インフルエンザウイルス性糖鎖の合成と評価	大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所
86	川口 貴之	社会環境工学科	准教授	地山補強土工用受圧板の寒冷地適応性向上に関する検討	日特建設(株)

◆平成 26 年度 共同研究概要◆

(民間機関等及研究代表者から公開の確認を得たもののみ掲載しています。)

4 (平成 24, 25, 26, 27 年複数年度契約)

研究題目	両面受光型太陽光発電システムに関する研究		
研究代表者	小原 伸哉	民間機関等	PVG Solutions 株式会社/株式会社 KITABA
研究概要	<p>オホーツク地域の特性や資源を生かした両面受光型太陽光発電システムの試験評価と、受光形態の最適化について研究する。積雪寒冷地への導入を目指した自然エネルギーに関わる研究であり、企業および自治体(北海道、北見市)との連携プロジェクトであることから、本学の目指す自然と調和するエネルギーの研究と合致するものと考える。</p>		

5 (平成 25, 26 年複数年度契約)

研究題目	凍結融解作用と実物大補強土壁の性能に関する実験研究		
研究代表者	川口 貴之	民間機関等	岡三リビック株式会社/東京インキ株式会社
研究概要	<p>補強土壁の壁面材は、凍上・融解現象により変状することが知られている。また、この変状は経年累積し、場合によっては崩壊に至る事例も確認されている。本研究は、補強土壁の壁面材および壁面材に接続する補強材の耐凍上性、凍結・融解特性を明らかにすることを目的とする。</p>		

6 (平成 24, 25, 26, 27 年複数年度契約)

研究題目	環北極陸域システムの変動と気候への影響		
研究代表者	佐々木 正史	民間機関等	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所
研究概要	<p>急変する北極気候システムの変動状況を、海洋・大気・陸域・雪氷・生態系の分野にわたり総合的に把握し、その結果を気候変動予測モデルに反映させて予測モデルの高度化・精緻化を図り、北極気候システムの変化が我が国や全球にもたらす影響を評価することを目的とした共同研究を実施する。</p> <p>また、北極環境研究の効果的・効率的実施に必要な研究基盤の整備・提供を図る。併せて、我が国の北極環境研究の総合力を高めるため北極環境研究者が All Japan で結集するネットワーク組織「北極環境研究コンソーシアム」の事務局の運営業務を行う。</p>		

◆平成 26 年度 共同研究概要◆

8 (平成 24, 25, 26, 27 年複数年度契約)

研究題目	北極海航路の利用可能性評価につながる海氷分布の将来予測		
研究代表者	館山 一孝	民間機関等	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所
研究概要	<p>急変する北極気候システムの変動状況を、海洋・大気・陸域・雪氷・生態系の分野にわたり総合的に把握し、その結果を気候変動予測モデルに反映させて予測モデルの高度化・精緻化を図り、北極気候システムの変化が我が国や全球にもたらす影響を評価することを目的とした共同研究を実施する。</p> <p>また、北極環境研究の効果的・効率的実施に必要な研究基盤の整備・提供を図る。併せて、我が国の北極環境研究の総合力を高めるため北極環境研究者が All Japan で結集するネットワーク組織「北極環境研究コンソーシアム」の事務局の運営業務を行う。</p>		

15 (平成 25, 26 年複数年度契約)

研究題目	橋梁耐震補強用ストッパーの寒冷地適用研究		
研究代表者	宮森 保紀	民間機関等	オイレス工業株式会社
研究概要	<p>橋梁の耐震補強に用いるデバイス(BM-S, BM-R など)の寒冷地での適用性を検討する。低温実験結果を用い、橋梁モデルによる振動解析を行う。</p> <p>また、低温時の動的応答解析手法や低温ハイブリッド載荷実験の適用も検討する。</p> <p>本共同研究の相手先は橋梁用免震制震装置を開発しており、本学の保有する低温実験設備と耐震技術に関する知見を共同研究に生かすことで、寒冷地における社会基盤施設の安全性の向上に大きく貢献することが期待される。</p>		

24 (平成 25, 26, 27, 28 年複数年度契約)

研究題目	雪氷状態モニタリング技術の開発		
研究代表者	館山 一孝	民間機関等	独立行政法人宇宙航空研究開発機構/ 株式会社センテンシア
研究概要	<p>冬季運航効率の向上のため、空港滑走路の雪氷状態量(雪氷の質や量)を光の散乱強度でモニタリングするための滑走路埋め込み式雪氷センサーを開発する。</p> <p>JAXA がセンサーを設計し、センテンシアが実際にセンサーを製作する。本学は低温室実験や屋外観測の設備を提供し、観測の支援とデータ解析を行う。</p>		

◆平成 26 年度 共同研究概要◆

28

研究題目	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究		
研究代表者	中山 恵介	民間機関等	北見市
研究概要	北見市廃棄物処理場及び昭和埋立処分場汚水処理施設における排水等の環境調査並びにごみ質調査等を行い、より専門的な解析評価を加えることにより施設の適正運営を図り、環境等への負荷を最小化することを目的とする。		

30

研究題目	メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築		
研究代表者	川村 彰	民間機関等	北見市
研究概要	平成 20 年度エコイノベーション推進事業、調査研究「メタンを水素とナノ炭素に直接改質する新技術と温暖化抑制効果」の調査成果を踏まえ、可搬型の反応装置を開発し、CO ₂ フリーメタン改質技術で製造されたナノ炭素を各地の企業に提供して用途開発を促す。メタン原料としては地域社会のバイオガスも用いる。		

36

研究題目	北見市環境調査研究（大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類）		
研究代表者	中山 恵介	民間機関等	北見市
研究概要	北見市における大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類に関わる環境調査研究をより専門的な角度から実施し、結果の解析評価から環境保全対策の一層の推進を図る。		

37

研究題目	積雪寒冷環境における水道管の浅層埋設に関する研究		
研究代表者	川口 貴之	民間機関等	北見市企業局
研究概要	本研究は、北見市において水道管を浅層埋設するための技術を検証すること目的に、積雪寒冷環境が水道管に及ぼす地中の温度分布、作用する応力など種々の影響について計測、分析するとともに、最適な埋設深度及び効率的な断熱材の設置位置についての検討、評価を実施する。		

◆平成 26 年度 共同研究概要◆

39

研究題目	常呂川水系水質調査研究		
研究代表者	中山 恵介	民間機関等	常呂川水系環境保全対策協議会
研究概要	常呂川水系の広域的な水質の調査をより専門的な角度から実施し、結果の解析評価から関係自治体による常呂川水系全域にわたる総合的な環境保全対策の推進を図る。		

44

研究題目	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究		
研究代表者	堀内 淳一	民間機関等	北見市企業局
研究概要	本研究は、寒冷地における高効率浄水処理技術の確立を目的に、北見市の水道水源である常呂川表流水を対象として、アルミ系凝集剤と鉄系凝集剤を用いた凝集実験を行い、効率的な凝集処理条件について検討するとともに処理性について評価を実施する。		

48

研究題目	廃トンネル内雪室の冷熱エネルギーを利用した農作物の貯蔵		
研究代表者	館山 一孝	民間機関等	オホーツク新エネルギー開発推進機構
研究概要	<p>【研究目的】</p> <p>電気エネルギーを使用せずに農作物を新鮮なまま長期間保存する手法を開発するため、日射が当たらない廃トンネルにおいて雪室を設置し、低コストで低温・高湿度環境を維持する技術の開発を行う。</p> <p>【内容】</p> <p>旧サロマトンネル内に簡易雪室を設置して北見産農作物を貯蔵し、雪室の温度と湿度の変化を計測する。農作物の新鮮度、栄養・食味向上の効果の有無やその効果が得られる期間を調査する。</p>		

◆平成 26 年度 共同研究概要◆

49

研究題目	橋梁維持管理におけるモニタリングデータの貯蔵と活用に関する研究		
研究代表者	宮森 保紀	民間機関等	株式会社豊水設計
研究概要	<p>現在、センサーを用いて既設橋梁などの社会基盤施設の挙動を測定し、維持管理や長寿命化に活用しようとする試みが注目されており、このような社会基盤モニタリングでは大量の計測データが発生している。これを有効的に管理し、従来の目視点検結果やGISデータなどの異なるデータと組み合わせることで有意な知見を得ることも期待されている。</p> <p>本共同研究では、実橋梁のモニタリングデータを通して橋梁の維持管理、点検業務における取得データの利活用方法について検討し、実務における効率的な維持管理手法の開発を目的とする。</p>		

54

研究題目	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究		
研究代表者	南 尚嗣	民間機関等	北見市企業局
研究概要	<p>下水処理とは物理学・化学・生物学などの原理を応用して、人工的に下水をある程度まで安全・安定化することである。現時点においては、下水処理プロセスに固液分離操作が必ず組み込まれており、下水処理工程から無機性もしくは有機性の汚泥を生ずる。この汚泥及び処理水をどのように処分するか決定するためにはその安全性について研究する必要がある。</p> <p>本研究は排水基準等に基づいて、長期間に渡って下水汚泥・放流水などの安全性について検討することを目的としている。</p>		

55

研究題目	下水汚泥の堆肥化に関する研究		
研究代表者	堀内 淳一	民間機関等	北見市企業局
研究概要	<p>下水処理工程で発生する汚泥は窒素・リン酸等の肥効成分のほか、土壤微生物の栄養基質たる有機物を多量に含んでおり、肥料として農業利用されている。</p> <p>本研究は下水汚泥を原料とした堆肥の製造工程を検証し、より有効な堆肥化方法を検討することを目的とする。</p>		

◆平成 26 年度 共同研究概要◆

56

研究題目	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究		
研究代表者	坂上 寛敏	民間機関等	北見市企業局
研究概要	<p>浄化センターからは下水処理工程により大量の放流水とともに無機性もしくは有機性の汚泥が排出される。この汚泥及び処理水から発生する臭気成分は季節や気象条件などによって周辺地域へ拡散し、地域住民に不快感を与えることがあり、時には健康に悪影響を及ぼすことも考えられる。このようなことから、下水汚泥及び放流水から発生する臭気成分の定量に関する研究を行う必要がある。</p> <p>本研究では、臭気成分の濃度や臭気指数を測定することによって臭気成分の周辺地域への影響を調べるとともに、防臭方法の検討も行う観点より研究することを目的としている。</p>		

57

研究題目	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究		
研究代表者	坂上 寛敏	民間機関等	北見市企業局
研究概要	<p>北見地区スクラムミックスセンターは北見地域で収集されたし尿を前処理し貯留した後、浄化センターに圧送し処理をしている。この過程で発生する臭気成分は脱臭設備により処理されて排出されているが、装置の運転状況などによってはこの臭気が拡散し、地域住民に不快感を与えることも考えられる。</p> <p>このため、施設で発生する臭気成分の濃度を測定することによって臭気成分の周辺地域への影響を調べるとともに、脱臭設備の効率的な運転方法の調査研究を目的としている。</p>		

59

研究題目	低温バリア絶縁膜に関する研究		
研究代表者	武山 真弓	民間機関等	株式会社富士通研究所
研究概要	デバイス間接続配線向けバリア絶縁膜の低温成膜技術およびバリア絶縁膜の特性評価技術、銅拡散に関する評価・解析技術を研究する。		

◆平成 26 年度 共同研究概要◆

65

研究題目	新時代工学的素養を有する中核人材の育成		
研究代表者	富士 明良	民間機関等	一般社団法人北見工業技術センター運営協会
研究概要	<p>地域活性化、地域貢献を目指し、平成一九年度から始めた中核人材育成事業の地域戦略としての実現化が、今後の地域貢献事業に役立つものである。本研究を北見工業技術センターとの連携のもと行うことは、事業化の可能性等の検討に今までにない考え方を盛り込むことができる上で重要となる。</p> <p>研究内容としては、難加工材等の溶接技術を有する溶接技術者をはじめ、関連する技術者に工学的知識を学んでもらい、品質要求の厳しい製造業における生産管理や品質管理、並びに寒冷地対応の溶接技術を有する中核人材を育成する。</p> <p>具体的な目標としては、難加工材であるアルミと異種金属の接合に関する研究を行い、その成果を地元製造業にフィードバックする。</p>		

66

研究題目	PVC ガス除湿システム基礎研究		
研究代表者	石谷 博美	民間機関等	株式会社ワーカム北海道
研究概要	<p>極低温下の Eng 稼働においてブローバイガスを解放する PCV ホースの内部水蒸気が凍結、ホース閉塞に至る現象がある。</p> <p>本研究では PCV ホース内の温度、水分量把握と共に除湿システムの実現性に向けた基礎試験を推進する。</p>		

70

研究題目	風車による系統制御技術の開発		
研究代表者	高橋 理音	民間機関等	株式会社日本製鋼所 室蘭製作所
研究概要	<p>①SVC 同様の性能を有する系統電圧制御システムの開発</p> <p>②発電所出力に合わせた各風車出力の最適化制御システムの開発</p>		

◆平成 26 年度 共同研究概要◆

72

研究題目	地域材循環システム構築に関する研究		
研究代表者	川村 彰	民間機関等	企業組合 北見産学医協働センター
研究概要	<p>北見市内の森林を伐採した場合、そのほとんどが市外へと流通し、また、製材、建設の場合についても市内のものもあるが、ほとんどが外材か市外からのものとなっている。</p> <p>北見市においては、原木や木材の流れを把握し、何が問題で、地域材の活用する場合には何が必要か、を捉えることが重要となることから、地域材の地域内での循環利用に向け、林業関係団体だけでなく木材に係わる様々な団体が共通認識を持ったシステムづくりの構築をめざしていく。</p>		

73

研究題目	工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業の効果に関する研究		
研究代表者	川村 彰	民間機関等	企業組合 北見産学医協働センター
研究概要	<p>平成 22 年度まで甲が行ってきた人材育成事業を発展的に継承するに当たり、乙と社会連携推進センターとの協力で、受講生の商品開発等に工学的知識を付与することにより人材育成を有効に進め、その効果を計る。</p> <p>研究内容としては、アンケート調査、聞き取り調査の結果及び商品化実態との関係により調査する。</p>		

75

研究題目	農業用資材梱包用ポリマーの耐寒性評価		
研究代表者	宇都 正幸	民間機関等	ホクレン包材株式会社
研究概要	<p>北海道など寒冷地において農業用資材の運搬、保存等に用いられるポリマー性梱包材は極低温下で長期間暴露される過酷な使用条件での安定性を求められる。</p> <p>本研究では、社会連携推進センターの低温室において氷点下環境で各種ポリエチレン袋の物理的特性試験を 20 kg 肥料充填の状態で実施する。</p>		

◆平成 26 年度 共同研究概要◆

77

研究題目	積雪寒冷地用クリーン分散エネルギー電力制御システムの研究		
研究代表者	小原 伸哉	民間機関等	リコーITソリューションズ株式会社
研究概要	積雪寒冷地用マイクログリッドを運用するための電力協調運用及び最適運用計画の研究を目的とする。そのための分散エネルギーの最適な電力を制御するシステムを構築し、実験を行う。		

80

研究題目	自然環境が作り出すマリモの球化のメカニズムおよびその生態等調査		
研究代表者	中山 恵介	民間機関等	日本放送協会釧路放送局/釧路市教育委員会
研究概要	北海道東部の阿寒湖の自然環境の調査および複数の水中カメラによる阿寒湖湖底のマリモの撮影を行い、世界の科学者が解明できないマリモの球化について、自然環境が作り出すマリモの球化のメカニズムおよびその生態等を調査する。		

85

研究題目	無水ニ糖モノマーの開環重合と生物化学反応による抗インフルエンザウイルス性糖鎖の合成と評価		
研究代表者	吉田 孝	民間機関等	大学共同利用機関法人自然科学研究機構 分子科学研究所
研究概要	<p>本共同研究では、北見工業大学において無水糖モノマーの開環重合法によって構造明確な糖鎖を合成しシアル酸転移酵素を用いる生物化学的手法によってシアル酸を導入した構造明確なシアル酸糖鎖を合成する。シアル酸の導入率、導入位置、糖鎖の種類、分子量などと抗ウイルス性との関係を詳細に検討し、高い抗インフルエンザウイルス性を示す新しい糖鎖の合成を行う。抗ウイルス性は共同研究先の聖マリアンナ医科大学において、インフルエンザウイルスを用いて調べる。糖鎖構造は高分解能 NMR 装置、ウイルススペプチドとシアル酸糖鎖との相互作用は表面プラズモン共鳴装置(SPR)を用いて検討し定量的に作用メカニズムを検討する。</p> <p>この基礎研究によって、新しいシアル酸糖鎖の構造と抗ウイルス性との関係や作用メカニズムを解明することで、未知の鳥インフルエンザウイルスなどにも効果が期待できる新しい生医学材料開発にも適応可能な研究開発に進展させる。</p>		

4) 産学官連携活動

交流イベント等出展状況

No	開催日	イベント名	開催場所
1	5/16(金) ～18(日)	第 29 回 2014 オホーツク「木」のフェスティバル http://www.owp.or.jp/fes/fes.html	北見市(サンドーム北見) (サンライフ北見) (スキルアップセンター北見)
2	7/9(水) ～11(金)	テクノトランスマート in かわさき 2014 第 27 回先端技術見本市 http://www.tech-kawasaki.jp/	神奈川県川崎市 (かながわサイエンスパーク KSP)
3	7/19(土) ～20(日)	オホーツクまるごと市	網走市 (道立オホーツク公園てんとらんど)
4	7/24(木)	北洋銀行ものづくりテクノフェア 2014 http://hokuyo-monotec.jp/	札幌市 (札幌コンベンションセンター)
5	8/21(木)	第 12 回全国高専テクノフォーラム	札幌市 (札幌コンベンションセンター)
6	9/4(木) ～5(金)	インフォメーションバザール in Tokyo 2014	東京(池袋サンシャインシティ)
7	9/7(日)	第 35 回ふるさと産業まつり	清里町(モトエカ広場)
8	9/8(月) ～9(火)	北海道地域 3 大学 2 公設試新技術説明会	東京(JST 東京本部別館ホール)
9	9/11(木) ～12(金)	イノベーション・ジャパン 2014 大学見本市 http://www.innovation-japan.jp	東京(東京ビックサイト)
10	10/7(日)	第 12 回輝農祭	大空町 (道の駅メルヘンの丘めまんべつ)
11	10/20(月) ～22(水)	アカデミックフォーラム www.cosme-i.jp/aca	東京(東京ビックサイト)
12	10/21(火)	朝日ビジネスマッチング 2014	東京(東京ドームホテル)
13	11/5(水) ～8(土)	メッセナゴヤ 2014 http://www.messenagoya.jp	愛知県名古屋市 (ポートメッセなごや)
14	11/6(木) ～7(金)	ビジネス EXPO 第 28 回北海道技術・ビジネス交流会 http://www.noastec.jp/business/	札幌市(アクセスサッポロ)
15	11/6(木) ～7(金)	シーズ・ニーズマッチングフェア with 金融機関	札幌市(アクセスサッポロ)

No	開催日	イベント名	開催場所
16	11/12(水) ～14(金)	アグリビジネス創出フェア 2014 http://agribiz-fair.jp/	東京(東京ビックサイト)
17	11/28(金) ～29(土)	2014 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido	札幌市(サッポロファクトリー)
18	1/14(水) ～19(月)	地域を彩る食物語	北見市 (コミュニティープラザ パラボ)
19	1/21(水)	北海道地域 3 大学 1 高専 1 公設試新技術説明会	札幌市(北海道大学)
20	3/20(金)	ひとを創る。ひとが創る。地域創生フォーラム	東京(イイノホール&カンファレンスセンター)

■イベント名：第29回2014オホーツク「木」のフェスティバル

■日 時：5月16日（金）～18日（日）

■会 場：サンライフ北見（北見市）

木に触れる身近な体験として、マネジメント工学コースの学生による「火おこし体験」を実施した。小さなお子さまから大人まで絶え間なく来場いただき、楽しんでいただける場となった。また地域の特色を色濃く反映した、スキーブーツ、カーリング技術、南極氷床ボーリング技術、海水、雪氷などに関する研究をパネルで紹介し、広く大学の広報を行った。ボランティア学生による森林保護活動の支援も行われ、本学からの幅広い参画が実現した。



北見工業大学ブース 左) 火おこし体験の様子 右) 研究紹介

■イベント名：第27回先端技術見本市 テクノトランスマートinかわさき 2014

■日 時：7月9日（水）～11日（金）

■会 場：かながわサイエンスパーク KSP（神奈川県川崎市）

本フェアには125の組織・機関からの出展があり、产学連携部門には本学も含め大学など21機関が参加した。本学からは、地の利を活かした特徴ある研究として、「第1次産業」・「環境」・「寒冷地」をキーワードとした、1次産品の機能抽出、大気汚染などの地球規模の気候変動のモニタリング、カーリング競技支援技術などの冬季スポーツ工学に関する研究を紹介した。会場では、「技術シーズ提供セミナー」も開催され、北見地域の環境を含めた大学の特徴を知っていただくためのプレゼンテーションを行った。会場となったKSPへの入居企業の中には多数の本学出身者がお世話になっている企業もあり、多くの卒業生がブースを訪れた。大学間の連携も含めた川崎地域での連携拡大の良い場であり、本展示会へ継続的な参加を計画している。



北見工業大学ブース



技術シーズ提供セミナー

- イベント名：第2回オホーツクまるごと市
- 日 時：7月19日（土）～20日（日）
- 会 場：道立オホーツク公園てんとらんど（網走市）

人材育成事業「新時代工学的農業クリエーター人材創出プラン」（以下、工農事業）の一環として、その受講生のフォローアップと地域食産業への貢献を目的に参加した。本学の工農事業成果となる開発商品の紹介を行うとともに、今年度から北見市雇用創造協議会「実践型地域雇用創造事業」と連携して進めている「工学連携推進型地域6次産業人材育成事業」の受講社会人の商品を、北見工業大学発ベンチャーである企業組合北見産学医協働センターを通し展示・販売した。会場では、東京農業大学が実施した人材育成事業の成果の一つとして立ち上げられたNPOによる受講生のフォローアップも展開されており、本学の工農事業で輩出した人材のフォローアップを考える参考となつた。



出店の様子



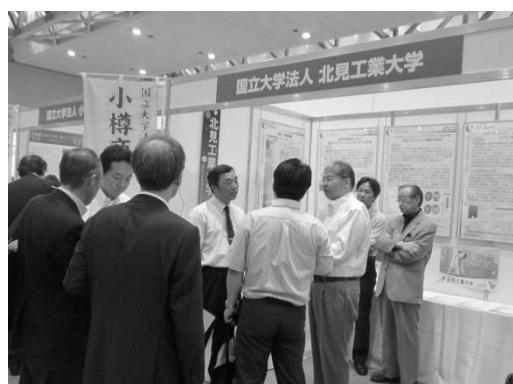
受講生による開発商品群

- イベント名：北洋銀行ものづくりテクノフェア2014
- 日 時：7月24日（木）
- 会 場：アクセスサッポロ（札幌市）

本学は共催機関のひとつとして出展参加した。本フェアへの出展は産業界を中心に196件あり、そのうち大学・高専からの出展は12件であった。本学からは、「医療」、「エネルギー」、「社会基盤」に関して取り組んでいる研究について紹介した。会場には約4千人の来場があった。本学のブースにも会社の求人依頼など多くの方にお出でいただいた。また、商談ブースでは出展者間での活発な商談が行われ、本学においても3件の商談が行われた。



北洋銀行ものづくりテクノフェア2014
開会式



北見工業大学ブース

- イベント名：第12回全国高専テクノフォーラム
- 日 時：8月21日（木）
- 会 場：札幌コンベンションセンター（札幌市）

国立高等専門学校機構が平成15年から毎年開催している「全国高専テクノフォーラム」が、本年度は札幌を会場に開催された。今回は「未来を築く力」がテーマであった。産学官連携・地域連携の一層の推進を図る事を目的に、高専が今後進むべき方向性と産学官連携の強化について考える、基調講演、パネルディスカッション、産学官金プレゼンテーション、技術相談、そしてパネル展が行われた。全国各地の国立高専から研究・産学連携に関わる多数の教員が参加した。本学からは、社会環境工学科の川村彰教授が取り組む、安価・簡便に道路維持管理、輸送等に活用するための研究「車両挙動解析による路面プロファイルのリアルタイム計測」について紹介を行った。

- イベント名：北洋銀行・帯広信用金庫 北の逸品インフォメーションバザール in Tokyo 2014
- 日 時：9月4日（木）～5日（金）
- 会 場：池袋サンシャインシティワールドインポートマートビル（東京都豊島区）

本学は平成24年から工農人材育成事業の成果発表の場として参加している。今年はオホーツク地域からの出展が増え、北見市、北見観光協会、商工会議所をはじめとし、北見から「農業法人有限会社香遊生活」、「農業法人株式会社イソップアグリシステム」、「株式会社北見ハッカ通商」、「KITAMI ブランドの会」、「きたみらい農業協同組合」、「株式会社しんや」、「株式会社清月」、「北見鈴木製菓株式会社」等が参加した。網走からは「株式会社東京農大バイオインダストリー」、東京農業大学が本学と同様の地域再生人材育成事業を実施した際の受講生等が立ち上げた「NPO法人創成塾」が参加した。産学官が一体となり地域と地域の商品をアピールした。同日に鹿児島銀行等が主催する「南の逸品商談会 in Tokyo 2014」も同会場で開催されており、会場では、南北の特産品のコラボレーション等も期待され、受講生にとっては自らが開発した商品の市場における販売ルートの開拓や販路の拡大のみならず、新たな開発に向けた情報共有とネットワーク構築の場として価値ある場となった。



開会式挨拶（高橋北海道知事）



北見工業大学が取り組む工農事業により開発した商品群

■イベント名：北海道地域3大学2公設試新技術説明会

■日 時：9月8日（月）～9日（火）

■会 場：JST東京別館ホール（東京都市ヶ谷）

独立行政法人科学技術振興機構（JST）と北海道大学産学連携本部が主催する新技術説明会では、北海道内の3大学と2つの公的試験研究機関から18件の発表が行われた。本学からはマテリアル工学科川村みどり教授が「表面ナノレイヤーを活用した高安定性銀薄膜」、情報システム工学科榎井文人准教授が「現代の様々な知的活動を支援する～自然言語活用とその応用」、そしてバイオ環境化学科鈴木勉教授が「新たな水素製造法に道を拓く木炭の利用技術」についてそれぞれ研究の成果を発表した。また、社会連携推進センター鞆師守教授による北見工業大学が取り組む地の利を活かした特徴的な研究の紹介も行われた。会場には約70人の参加があり。個別技術相談も活発に行われた。



研究を紹介する川村教授



研究を紹介する榎井准教授



研究を紹介する鈴木教授



大学の活動を紹介する鞆師教授

■イベント名：イノベーション・ジャパン2014 大学見本市

■日 時：9月11日（木）～12日（金）

■会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）と、独立行政法人科学技術振興機構（JST）が連携した、我が国の産学連携を強力に推進するための国内最大規模の産学マッチングイベントである。全国から500を超える大学、ベンチャー企業等の研究が出展された。出展には技術内容の事前審査を経る必要があり、本学からは、電気電子工学科橋本泰成准教授が取り組む、「脳と身体を回復させるリハビリテーション工学技術」、情報システム工学科榎井文人准教授が取り組む、「カーリング先進国を目指して-カーリング情報学による戦術支援-」の2つの技術の出展が実現した。橋本准教授は、会場で行われたJSTショートプレゼンテーションにおいても技術紹介を行った。また「カーリング先進国を目指して-カーリング情報学による戦術支援-」は特に来場者の皆さんに本学を強く印象づける出展となった。



来場者への技術説明 左) 棚井准教授 右) 橋本准教授



JST ショートプレゼンテーション
(橋本准教授)



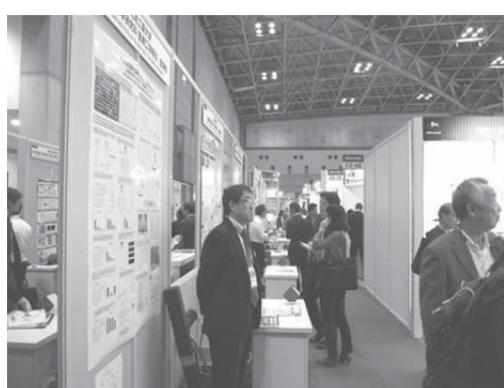
イノベーションジャパン 2014 会場

■イベント名：「化粧品開発展-COSME Tech 2014-」アカデミックフォーラム

■日 時：10月20日（月）～22日（水）

■会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

本学からは初めての出展となった。オホツク地域で生産される地域資源、ハマナスなどの活用を目指した取り組みを紹介した。バイオ環境化学科新井博文准教授が取り組む「ハマナス花弁由来加水分解型タンニンによるアレルギー抑制」について、本学大学院工学研究科博士後期課程医療工学専攻金澤勉氏がプレゼンテーションとポスターによる研究紹介を行った。工科系の大学が出展している例は少なく、本学の第1次産業に関する教育・研究による地域連携・社会貢献への取り組みについて、本学の特徴を強く意識していただける場となった。



「化粧品開発展-COSME Tech 2014-」アカデミックフォーラム会場

■イベント名：第2回朝日ビジネスマッチング2014

■日 時：10月21日（火）

■会 場：東京ドームホテル（東京都文京区）

本フェアに昨年に引き続き出展した。朝日信用金庫と独立行政法人科学技術振興機構（JST）は大学などの研究成果を産業界に移転し、産業振興、イノベーション創出につなげていくことを目的とし包括協定を締結した。本フェアはその活動の一つとして開催されている。会場には、朝日信用金庫がネットワークを持つ地域の中小企業が数多く参加し、130の企業、全国の50の学術機関・大学が出展した。出展企業はWEB出展を含めると昨年度より100機関以上多い約600社におよび、大規模な展示会となった。本学は機器分析センター大津直史准教授が取り組む、「骨親和性を持つチタン材料を得るための新表面処理技術」をパネル展示とプレゼンテーションにより紹介した。昨年度には出展がきっかけとなり受けた具体的な技術相談が商品開発へと進むなど、本イベントは新しいネットワークが生まれる場となっている。



北見工業大学展示ブース



ショートプレゼンテーション

■イベント名：メッセナゴヤ2014

■日 時：11月5日（水）～8日（土）

■会 場：ポートメッセなごや（名古屋市国際展示場）

本フェアは中京圏を中心とした自動車関連企業、名古屋地域のモノづくり企業が出展参加する日本最大級の異業種交流展示会で、今年は過去最多となる850社・団体が出展した。北海道では、北海道内企業や学術機関の技術・製品等の広報を目的として、昨年に引き続き会場内に北海道ブースを設け、自動車関連技術、医療、エネルギー、環境関連技術に焦点をあてた展示が行われた。本学は2回目の出展となり、医療技術分野において電気電子工学科橋本泰成准教授の「脳と身体を回復させるリハビリテーション工学技術」を紹介した。会場には昨年の来場者数を5千人ほど超える4日間で6万6千人の来場があった。本学のブースには求人を目的とする企業からの来場もあった。中京圏での技術紹介を行う充分な機会を持っていない本学において、本フェアは大学広報の面からも貴重な場となった。



メッセナゴヤ2014 北海道ブース会場

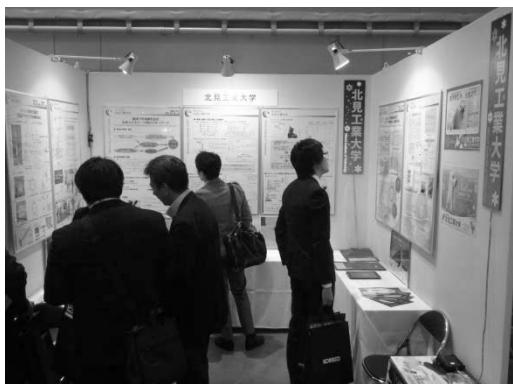
■イベント名：第 28 回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）

■日 時：11月6日（木）～7日（金）

■会 場：アクセスサッポロ（札幌市）

「学術・試験研究機関展示ゾーン」にて、大学の紹介とともに、本学が取り組む研究ユニットから「冬季スポーツ工学研究ユニット」に関連する研究の紹介を行った。日本人の骨格に適応した競技用スキーブーツの開発、カーリング競技における選手のスウィーピングスキル向上支援技術および戦術支援技術について紹介し、多くの来場者の関心を得た。

また、会場では、「ものづくりセミナー『北海道のものづくり技術が日本を支える！上村愛子さんトークショー』」が開催された。上村氏が履いていたスキーブーツには、本学機械工学科教授鈴木聰一郎先生の技術が活かされている。トークショーは鈴木先生による司会で進められ、上村氏と、長年上村氏のスキーブーツを手がけ現在も鈴木先生と共同研究を実施している株式会社レグザムの林末善氏との3人での対談が行われた。会場には、入りきれないほどの200人を超える来場者があつた。



北見工業大学出展ブース



ものづくりセミナー

左)鈴木教授 中央)上村氏 右)林氏

■イベント名：第 2 回シーズ・ニーズマッチングフェア with 金融機関

■日 時：11月6日（木）～7日（金）

■会 場：アクセスサッポロ（札幌市）

今回は、ビジネス EXPO 「第 28 回北海道技術・ビジネス交流会」への約 2 万人に上る来場者を活かし、ビジネス EXPO と同時開催で行われた。本学からは情報システム工学科・早川吉彦准教授が、「X 線 CT イメージングにおける統計的画像再構成法の様々な応用」を報告した。早川准教授によるプレゼンテーションの終了後には関係の研究者とのディスカッションが行われた。



研究紹介する早川准教授

■イベント名：アグリビジネス創出フェア 2014

■日 時：11月12日（水）～14日（金）

■会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

■イベント名：アグリビジネス創出フェア in Hokkaido

■日 時：11月28日（金）～29日（土）

■会 場：サッポロファクトリー（札幌市）

本学では平成18年度から、工学的素養を持つ土木・建設業の技術者を主な対象とし、農業関連分野に参入する人材を育成する「工農教育事業」を進めている。その取り組みがきっかけとなり、本フェア（東京ビッグサイト、サッポロファクトリー）に平成19年度より継続して出展している。今回は、工農教育の事業紹介と、工農連携研究ユニットで実施している4つの研究についてパネル展示にて紹介するとともに、プレゼンテーションを実施した。東京ビッグサイトの会場には147機関が出展し、3日間で約3万2千人の来場があった。両イベントは、「食・農」に関連した地域性を強く出すことができる場であるが、工科系の大学が出展している例は少なく、また東京ビッグサイト会場での北海道からの出展は本学のみだった。第1次産業に関する教育・研究による地域連携・社会貢献に取り組む、本学の特徴を強く意識していただける場となった。



北見工業大学ブース（東京ビッグサイト）



アグリビジネス創出フェア in Hokkaido
会場



北見工業大学ブース
(サッポロファクトリー)

■イベント名：第3回北見工業大学公開講座

「産学官連携とは？～北見工業大学の社会貢献活動を知ろう」

■日 時：12月4日（木）～12月5日（金）

■会 場：北見工業大学総合研究棟2階 多目的講義室

北見工業大学が行っている一般市民を対象とした公開講座において、大学が取り組む社会貢献活動を紹介した。本学の社会貢献・産学官連携の窓口である社会連携推進センターのスタッフ4人より、「社会連携推進センターの紹介」、「北見工業大学の特徴的な概要」、「教育・研究の最前線」、そして「地域連携・地域貢献活動」について講義を行った。その後、社会貢献に取り組む北見工業大学をより身近に感じてもらえるようキャンパスツアーを行い、図書館など一般市民の方にご利用いただける施設見学や、研究を行っている現場である研究室・実験室の見学を実施した。



川村 社会連携推進センター長



会場



キャンパスツアー

左) 研究室訪問（ドライビングシミュレータ） 右) KIT ギャラリー



■イベント名：第5回地域を彩る食物語

■日 時：1月14日（水）～19日（月）

■会 場：コミュニティプラザパラボまちきた大通ビル（北見市）

北見市産学官連携推進協議会が主催、北見工業大学は共催で開催する本フェアは、高知物産展との同時開催で実施した。本学は平成18年度から5年間、独立行政法人科学技術振興機構が実施する文部科学省科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」事業により、農業地帯にある工業大学という利点を活かし、工学的・専門的知識に基づく「食」をキーワードとした工学的農業クリエーターを育成している。本フェアでは、同様な文部科学省事業により「食」をキーワードとして人材育成・新ビジネス創出など地域振興に取組んでいる高知大学や長崎大学など全国の大学の取り組みについて、パネル展やプレゼンテーション、開発商品の販売などが行われた。



受講生が開発した商品の市場調査



受講生によるプレゼンテーション

■イベント名：北海道地域3大学1高専1公設試新技術説明会

■日 時：1月21日（水）

■会 場：北海道大学創成科学研究棟（札幌市）

独立行政法人科学技術振興機構(JST)と北海道大学産学連携本部の主催による新技術説明会が札幌を会場に行われた。北海道内の3大学と1つの公的試験研究機関から8件の発表が行われた。本学からは機械工学科星野洋平准教授が「軽量・柔軟な機械構造物のための軽量脱着型振動除去装置」の研究を紹介した。会場には約40人の参加があり、個別技術相談も活発に行われた。また、閉会式では共催機関の立場から、社会連携推進センター鞘師守教授より今後の研究・産学官連携の発展に向け有意義な広報・情報交換の場であること、発表者の研究力向上の場となる本会の価値が高いことについて説明した。



新技術説明会会場



研究紹介（星野准教授）

■イベント名：地域企業による「大学活用の成功事例」と「大学の使い方」

■日 時：2月23日（月）

■会 場：北見工業大学総合研究棟2階多目的講義室（北見市）

特定非営利活動法人产学連携学会北海道支部が主催し、一般社団法人中小企業家同友会オホーツク支部と本学社会連携推進センターの共催で開催した。財団法人川崎市産業振興財団産業支援部長櫻井亨氏より「川崎の中小企業による大学活用の事例～川崎市の产学・産産連携モデル～」と題し、基調講演が行われた。また「地域企業による『大学活用の成功事例』と『大学の使い方』」をテーマとしたパネルディスカッションが行われた。基調講演を行った櫻井氏をはじめ、株式会社白石ゴム製作所代表取締役会長千葉武雄氏、島根大学産学連携センター丹生晃隆准教授、本学から内島典子産学官連携コーディネーターの4名がパネリストを、また、本学社会連携推進センターの鞘師守教授がモデレータを務めた。北見地域をはじめ札幌、釧路地域などの産業界、行政機関、そして大学等研究機関から、約45人の参加があった。大学活用の事例紹介と、その良さや大学活用時の留意点、そして企業による大学活用の方法・コツなど、今回のシンポジウムのテーマである「大学の活用」について、フロアも交えた活発な議論が展開された。



基調講演（櫻井氏）



パネルディスカッション

■イベント名：ひとを創る。ひとが創る。地域創生フォーラム

■日 時：3月20日（金）

■会 場：イイノホール&カンファレンスセンター（東京都千代田区）

社会システム改革と研究開発の一体的推進事業の一環で、地域再生人材創出拠点の形成シンポジウムが開催された。このフォーラムでは、これまで「地域再生人材創出拠点の形成」事業において人材育成事業に実績を上げている、本学を含む全国の大学等の採択プロジェクトの紹介とその成果報告、パネル展が実施された。基調講演の後には、人材育成分野により6つの分野に分かれてファーチャーセッションを行い、それぞれの議論が行われた。また、「地（知）の拠点大学による地方創生推進（大学COC+）事業」と呼ばれる、地域創生の中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的とした事業の説明も行われた。



フォーラム会場

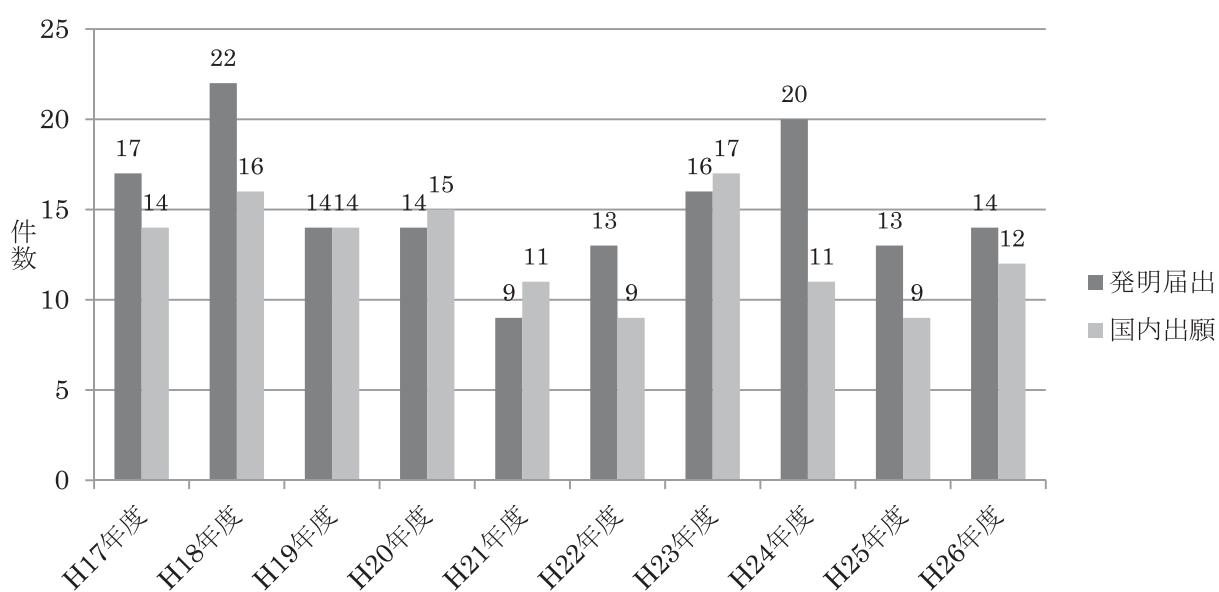


パネル展

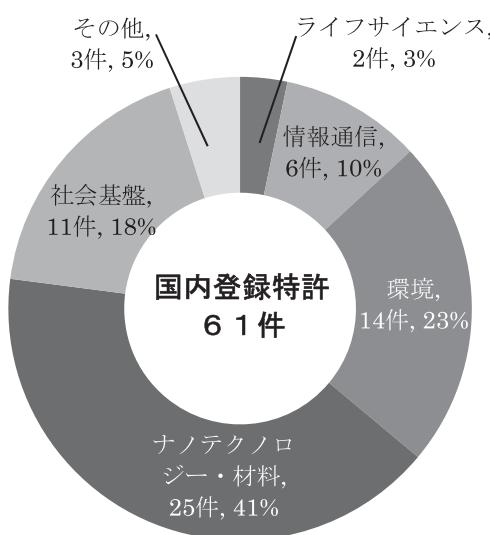
5) 知的財産活動実績

本学では、研究の成果を知的財産として権利化し活用する活動を進めている。平成 21 年度から、研究者ごとの個別面談をベースに知的財産活動の重点を研究のより上流過程にシフトしており、研究の早い段階から知的財産面からの支援を行っている。また基本的な知的財産活動の趣旨を啓発から質的向上へとフェーズアップさせており、近年の国内出願数は 10 件程度／年となっている。国内登録特許件数は、平成 25 年度末と比較し 3 件増加した。その技術分野は、ナノテクノロジー・材料をはじめ、環境、社会基盤、情報通信など広範に及んでいる。

発明届出・国内特許出願件数 年度別推移



国内登録特許件数 分野別累計



6) 第26回国立大学法人共同研究センター長等会議

9月25日（木）～26日（金）の2日間、北見工業大学が幹事校となり「第26回国立大学法人共同研究センター長等会議」を開催した。本会議は、共同研究センター等を有する全国の国立大学法人で毎年開催しているものである。今回の参加機関は、北は北海道から南は沖縄県まで全国の60大学となった。「将来を見据えた共同研究センター等の新たなステージへの前進」を念頭に、基調講演、全体協議、分科会などにより活発な意見交換を行った。

平成26年9月25日（木）

14:00～開会の挨拶 北見工業大学長 高橋 信夫
14:10～基調講演 「産学官連携の現状と共同研究センターへの期待」
文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課長 木村 直人 氏
14:30～全体協議 ①次期当番校について
②第27回国立大学法人共同研究センター等教員会議報告

15:00～分科会

【分科会A】将来に向けた共同研究センター等の役割・機能

① 大学の特色ある社会(地域)貢献活動 ② 産学官連携が大学果たす役割
座長：室蘭工業大学地域共同研究開発センター長 鴨田 秀一 特任教授
座長：鹿児島大学産学官連携推進センター長 福島 誠治 教授
書記：北見工業大学社会連携推進センター 鞠師 守 教授

【分科会B】社会連携の多様性及び地域固有課題への対応

① 地域ニーズに応える大学 ② 産学官連携活動及び体制の評価
座長：北海道大学産学連携本部統括部長 末富 弘 特任教授
座長：電気通信大学産学官連携センター長 中嶋 信生 特任教授
書記：北見工業大学社会連携推進センター 有田 敏彦 教授

18:00～19:30情報交換会（ホーツクビアクトリー）

平成26年9月26日（金）

9:30～講演「地域資源の有効活用」
丸玉産業株式会社 取締役社長 大越 敏弘 氏
10:15～分科会報告（A, B,まとめ）
進行：北見工業大学社会連携推進センター長 川村 彰 教授
11:45～次期当番校挨拶・閉会



文部科学省 木村課長による基調講演



丸玉産業（株）大越取締役社長の講演



全体会議・分科会報告

7) 地域再生人材育成プログラムの推進

「工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業」(改称)第 9 期の実施

【(旧) 新時代工学的農業クリエーター人材創出プラン】

平成 18 年度より 5 年間続けてきた「新時代工学的農業クリエーター人材創出プラン」は、平成 23 年度においては北見市の協力により「産学官連携第 6 次産業人材育成事業」として、また平成 24 年度にはオホーツク総合振興局の「オホーツク「食」の地域資源付加価値向上事業」として継続することができた。さらに、平成 25 年度においては北見市の協力により、「地域資源付加価値向上 6 次産業人材育成事業」として実施できた。国立大学法人はこの種の事業の採択を受けることはできないため、北見工業大学発ベンチャー企業である企業組合北見産学医協働センターが事業採択を受け、大学の人材育成を連携して実行した。

(1) 開発課題概要

① 超強力粉（ゆめちから）を活用した新商品開発

北見市雇用創造協議会との連携で進めている地場産材の有効活用による商品開発の一環として行っている。超強力粉（ゆめちから）を用い、饅頭等の試作を行い、生地としての活用に取り組み、饅頭については一定の成果を出すことができた。

② 白花豆を活用した新商品開発

こちらも北見市雇用創造協議会との連携で進めた課題で、これまで和洋菓子の餡等としての活用が多かった白花豆を用い、和洋菓子を含め種々の検討を重ねた結果、これまでにない商品として鶏肉等と混ぜ合わせたソーセージを考案した。

③ 地場産野菜、地場産肉を活用した商品開発（あん）

こちらも北見市雇用創造協議会との連携で進めた課題で、タマネギを中心とした地場産野菜や近年各地で食材として利用が検討されているエゾシカ肉等の活用による食材開発で①で示した饅頭の餡の開発と継続的に地場産酢との連携による、新たなレシピづくりに取り組んだ。

④ 北見工業大学と地域との連携による 6 次産業活性化

北見市やその周辺は、農林水産業の盛んな地域であり、1 次・2 次・3 次の各産業が連携する新しい形態の産業、6 次産業による活性化が期待されるので、その促進に向けた北見工業大学の貢献方法について考察した。北見工業大学が特徴を活かして地域 6 次産業に貢献する方法として「工学の知識・技術を農業関連領域での地域振興に活かす北見地域の知識拠点を形成すること」について検討した。

⑤ 北見産紫蘇の廃棄蒸留水利用

北見市端野町北登地域で栽培されている紫蘇から得られる紫蘇油の廃棄蒸留水の有効利用を検討した。紫蘇油はハッカと同様に水蒸気蒸留法で製造されるため、大量に蒸留水が生じこれらは廃棄していた。これまでの研究で廃棄されている紫蘇水にも特有の香りと紫蘇の有効成分が含まれていることから抗菌性に着目し、これらの有効利用を検討した。

(2) 地域の販売イベント等

①オホーツクまるごと市（網走市）

日 時：平成 26 年 7 月 19 日（土）、20 日（日）10：00～16：00

会 場：道立オホーツク公園（てんとらんど）

主 催：オホーツクまるごと市実行委員会

網走市で開催された「オホーツクまるごと市」へ参加した。

本イベントにおいては、受講生の小麦の利用に関する試作品カップケーキを販売し、小麦事業の PR も行った。東京農業大学受講生なども参加しており、地域において成果品をアピールする良い機会であった。

②インフォメーションバザール in Tokyo 2014（東京都）

日 時：平成 26 年 9 月 4 日（木）10：00～17：00

平成 26 年 9 月 5 日（金）10：00～16：00

会 場：池袋サンシャインシティ ワールドインポートマートビル 4 階

主 催：北洋銀行、帯広信用金庫

東京都で開催された「インフォメーションバザール in Tokyo 2014」へ参加した。本イベントは、「南の逸品商談会 in Tokyo 2014」と同時開催されたものであり、北海道及び南九州地域の食品を首都圏に向けて紹介し、市場における販売ルートの開拓や販路拡大を目指す実践的な商談会であった。本イベントでは、受講生 3 名が地域食品加工（特にオホーツク地域）に関するアンケートを行った。

本事業の過去の受講生の開発商品の PR なども行われており、修了生が継続して商品開発などに携わっていることで、本事業の有用性を確認できた。

当日は東京農業大学受講生も商品販売・PR を行っていた。当日は連休初日であり各地から消費者が集まる道の駅であることから、このような地域マルシェで商品化などの方向性をつかむ良い機会である。

③清里ふるさと産業まつり「オホーツク・マルシェ」（清里町）

日 時：平成 26 年 9 月 7 日（日）10：00～14：30

会 場：清里町ふるさと産業まつり会場（モトエカ広場）

主 催：清里町ふるさと産業まつり実行委員会

清里町で開催された「清里ふるさと産業まつり」へ参加した。本イベントは、清里町の特産物、生産物（農・畜・林・商）を町内外に広く PR することとともに、町内外からの出店により交流人口を増やし、活力のあるまちづくりを推進することを目的としている。本イベントにおいては、受講生の開発商品の PR を行った。

④アグリビジネス創出フェア 2014（東京都）

日 時：平成 26 年 10 月 12 日（水）～14 日（金）10：00～17：00

会 場：東京ビッグサイト

主 催：農林水産省

東京都で開催されている「アグリビジネス創出フェア 2014」に参加した。本イベントは、産学官の各機関が、農林水産・食に関する最新の技術を持ち寄り交流することを通じ、新たなビジネスの芽を創出する事を目的として毎年開催されている。

ブースでは大学におけるバイオ関連研究内容の説明、人材育成事業についての情報提供などを行い、来場者との交流を図った。

本イベントには、来場者に商品PRを行うとともに、商品についての意見、要望等を伺った。展示品については試食をしなかったため、バイヤーに製品を配り受講生に内容を知らせた。また、展示内容について情報交換を行い、各出品者に内容をフィードバックした。

⑤輝農祭～農業の活気を取り戻そう～（大空町）

日 時：平成25年10月20日（日）10:00～15:00

会 場：道の駅「メルヘンの丘めまんべつ」

主 催：輝農祭実行委員会

大空町で開催された「輝農祭」へ参加した。本イベントは、今年で11回目であり、有機農業を通して、食の安全や大切さを知ってもらうことを目的としている。

地元の小学生が育てたかぼちやの販売、料理実習、近隣地域からの出店、地元小・中・高校生のステージや北見工業大学学生による、おもしろ科学実験などのイベントが催された。

本イベントにおいても、受講生1名が販売実習を行った。

⑥アグリビジネス創出フェア in Hokkaido（札幌市）

日 時：平成25年11月28日（金）～29日（土）10:00～17:00

会 場：サッポロファクトリー

主 催：NPO法人グリーンテクノバンク、農林水産省

本イベントは、“北海道の食と農の明日へ”と題し、北海道地域の農業、食品産業及び関連産業の活性化を目指し、産学官連携による技術開発の促進、起業化・事業家チャンスの発掘とビジネス・ネットワークの拡大を図るとともに、産業の技術開発と新技術の普及の大切さを市民に伝えることを目的としている。

農業、食品分野の技術交流展示、ステージプレゼンテーションなど一般の方にも開かれた展示会である。

本イベントでは、修了生2名の商品（大豆フレッシュソース他、おっからー）ならびに試作品の展示紹介、広くたくさんの方に認知していただけるよう紹介を行った。現在進めている開発商品へ利用可能な技術の知得とビジネス・ネットワークの拡大に努めた。

また、ベースプレゼンテーションでは大学でのバイオ関連内容ならびに人材育成事業の紹介、ステージプレゼンテーションでは受講生開発商品の紹介を行った

⑦講演会「宮内庁ご用達料理人のアイディアで、北見の食材を全国へⅡ」

日 時：平成26年11月29日（土）17:00～18:30

会 場：北見経済センター

主 催：北見市雇用創造協議会

講 師：野永喜三夫氏（日本橋ゆかり 3代目 総料理長）

石山 徹氏（文化教育科学者）

本講演会は昨年に続き、北見工業大学客員教授である吉田芳春先生の紹介により実現した。“食”をテーマとして、様々なプロデュースに関わる有識者に、「北見の豊かな食材のおいしさを知るとともに、付加価値化を高めることで地域全体を全国に発信していく取組」について講演いただいた。そののち、地域活性化のために何が必要かについての講演と試食会が行われた。

「日本橋ゆかり」の野永喜三夫氏は自社で納豆などを使用したドレッシングの販売を行っているが、今回はオホーツクの地元素材（鮭、タマネギ、ジャガイモ）をベースとした新しい調味料として3種類のドレッシングを作成し、同じく地元で取れた新鮮な野菜と合わせて試食を行った。オホーツク産素材を使用した試食など今後のヒントとなる話題提供をいただいた。

⑧地域を彩る食物語～大学からの発信 こだわりあるおいしいものの販売!!～

日 時：平成 27 年 1 月 14 日（水）～19 日（月）9:00～18:00（最終日は 17:00 まで）

会 場：コミュニティプラザパラボ 5 階

主 催：北見市産学官連携推進協議会

共 催：北見工業大学

各地域の大学が実施している食農人材養成事業の成果品等を発表するとともに、食農人材養成事業について市民の皆様に周知することを目的として北見工業大学が共催しているイベントである。

人材育成事業内容の発表、受講生の成果報告、事業の中で開発した商品や大学の技術を利用して製品化した商品を紹介し、“食と健康”、“人材育成”をキーワードとした地域興しの意識を広く共有し向上させることを目的としている。

本年で 5 回目を迎えるイベントで、今年から北見市産学官連携推進協議会が主催、北見工業大学が共催となつたが、事業の趣旨は全く変わらず開催された。また、北見市の姉妹都市である高知市の产品、観光を PR する高知物産と同日程で開催した。



開会式（金田会長挨拶）



来賓挨拶（北見市長）



共催者 北見工大（鞘師教授）



会場の様子

⑨東京農業大学オホーツク実学センター公開シンポジウム 2015

北海道・オホーツク地域産学官連携推進セミナー

「オホーツク発 産学官連携による新たなアグリ・フードビジネス」

日 時：平成 27 年 2 月 21 日（土）9:00～12:10

会 場：網走市、東京農業大学オホーツクキャンパス大講義室

主 催：東京農業大学オホーツク実学センター、

オホーツク地域産学官連携推進事業実行委員会

共 催：網走市、北洋銀行

平成 27 年 1 月 23 日（金）～24 日（土）に 2014 年度「地域再生人材創出拠点の形成事業採択大学合同特別セミナー in 網走」として、北見工業大学、東京農業大学、帯広畜産大学「地域再生人材創出拠点の形成」事業採択 3 大学の人材育成事業の受講生・修了生が新たな知識習得やプレゼンテーションスキルのスキルアップを図り、情報交換を通じて大学間や受講生・修了生同士の交流を深めることを目的として開催予定であったが、悪天候のため中止された。本セミナーは、その趣旨を組むシンポジウムとして若干形を変えて開催された。

⑩北見市技能普及講演会「ピクルスの魅力と可能性」

日 時：平成 27 年 3 月 20 日（金）15：00～

会 場：北見市民会館 4 号会議室

主 催：北見市技能普及実行委員会

講 師：長谷部直美氏（ぴくるす&干し野菜「アトリエ hasebe」主宰）

本講演会は地域食材を活用した新商品の開発や技術普及などに係る講演会を実施することで職業人教育、産業人養成を促進し、あわせて地場産品の高付加価値化による取り組みの強化を図るとともに、これをきっかけに改めて当地域の食材のおいしさを知るとともに「食」の技能の普及と推進により、地域活性化を図る目的で開催された講演会であり、酢の活用に関する情報収集を含め参加した。

（3）国際シンポジウム

第 6 回 江原大学・北見工業大学 ジョイントシンポジウム

主 催：北見工業大学・江原大学（韓国）（センター間協定に基づく事業）

共 催：東京農業大学生物産業学部・江原大学 医生命科学大学 生命健康工学科

場 所：北見工業大学 総合研究棟 多目的講義室

日 時：2014 年 10 月 10 日（金） 13:00～

細胞内糖代謝調節機能を有する糖尿病改善用の機能性製品

江原大学 医生命科学大学生命健康工学科 教授 崔 勉

機能性納豆菌の開発と応用

江原大学 医生命科学大学生命健康工学科 教授 李 海翊

地域資源を利用した加工製品の開発

江原大学 Well-Being Bioproducts R&D Regional Innovation Center
研究開発室長 金 泰佑

エゾシカ肉活用における 1 アプローチ

東京農業大学 生物産業学部 食品香粧学科 教授 佐藤広顕

和ハッカ「ほくしん」の香気分析

東京農業大学 生物産業学部 食品香粧学科 教授 藤森 嶺

ハマナス花弁ポリフェノールによるアレルギー抑制効果

北見工業大学 バイオ環境化学科 准教授 新井博文

工農教育プログラムと地域貢献

北見工業大学 バイオ環境化学科 研究員 住佐 太

本シンポジウムは、江原大学と北見工業大学の両大学がそれぞれの位置する地域の特性を活かし地域特産品の高付加価値化から産業化へつなげることを目指し、開催された。本シンポジウムでは、各講師より地域特産品を活かした高付加価値化の実例の講演がなされた。

(4) 今後について

本事業を通して各地で6次産業化の動きが活発化しており、本事業の本質である「第一次産業の工業化」に向けて徐々に地域の思いのベクトルがそろいつつある事を再確認できました。产学官連携による産業振興では、人材育成を行いつつ地域特性を生かした商品作りを試み、販促活動、市場調査を進めることができます、かなり有効な手段と全国的に理解されてきていますので、今後さらなる強固な協力体制により継続できるよう努力していきます。

8) 各種会議報告

◇社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議

会議名称	第1回社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議
開催状況	日 時 平成26年11月21日(金)13:30~16:20
	審議事項 1 市町村訪問からの新たな地域連携の創出
	2 国等からの事業採択に向けた地域／各大学の連携による提案の可能性
	報告事項 1 委員等からの情報提供
	2 北見工業大学からの情報提供

◇北見工業大学社会連携推進センター推進協議会

会議名称	北見工業大学社会連携推進センター推進協議会 平成26年度総会
開催状況	日 時 平成26年4月16日(水)14:00~15:00
	審議事項 1 報告第1号 平成25年度事業報告
	2 報告第2号 平成25年度決算報告
	3 報告第3号 平成25年度監査報告
	4 議案第1号 平成26年度事業計画(案)
	5 議案第2号 平成26年度予算(案)

◇北見市産学官連携推進協議会

会議名称	北見市産学官連携推進協議会
開催状況	日 時 平成26年5月20日(火)13:30~14:30
	審議事項 1 報告第1号 平成25年度事業報告について
	2 報告第2号 平成25年度決算報告について
	3 報告第3号 平成25年度監査報告について
	4 議案第1号 平成26年度事業計画(案)について
	5 議案第2号 平成26年度予算(案)について
	6 議案第3号 役員改選について
	その他 1 オホーツク産学官融合センター事業報告等
	2 中小機構 北見オフィス事業報告等
	3 情報交換

◇社会連携推進センター運営会議(社会連携推進センター運営委員会)

会議名称	第1回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成26年4月10日(木)14:00~15:00
	審議事項	1 国立大学法人共同研究センター長等会議について 2 市町村訪問について
会議名称	第2回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成26年5月7日(木)15:00~16:55
	審議事項	1 国立大学法人共同研究センター長等会議について
	報告事項	1 平成26年度第1回教育研究評議会について
会議名称	第3回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成26年6月4日(水)10:00~11:40
	審議事項	1 国立大学法人共同研究センター長等会議について 2 スーパー連携大学院地域コアについて 3 新年度の工農教育について
	報告事項	1 平成26年度第2回教育研究評議会について
会議名称	第4回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成26年7月2日(水)10:00~11:40
	審議事項	1 第26回国立大学法人共同研究センター長等会議について 2 平成25年度決算、平成26年度予算(案)について
	報告事項	1 平成26年度第3回教育研究評議会について 2 利益相反マネジメントについて
会議名称	第5回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成26年8月1日(水)15:00~16:30
	審議事項	1 第26回国立大学法人共同研究センター長等会議について
	報告事項	1 平成26年度第4回教育研究評議会について

会議名称	第 6 回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成 26 年 9 月 1 日(月)15:00～16:15
	審議事項	1 第 26 回国立大学法人共同研究センター長等会議について 2 平成 26 年度産学官連携推進員・協力員合同会議について
	報告事項	1 国立大学法人北見工業大学利益相反マネジメントポリシー（案）及び利益相反マネジメント規程（案）について

会議名称	第 7 回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成 26 年 10 月 1 日(水)13:00～14:30
	審議事項	1 平成 26 年度産学官連携推進員・協力員合同会議について 2 第 6 回北見工業大学・江原大学ジョイントシンポジウムについて 3 産学連携学会第 13 回大会について
	報告事項	1 平成 26 年度第 5 回教育研究評議会について

会議名称	第 8 回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成 26 年 11 月 4 日(水)13:00～14:15
	審議事項	1 平成 26 年度第 1 回国立大学法人北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議について 2 平成 27 年度客員教授について
	報告事項	1 平成 26 年度第 6 回教育研究評議会について

会議名称	第 9 回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成 26 年 12 月 2 日(火)13:00～14:20
	審議事項	1 地域を彩る食物語について
	報告事項	1 社会連携推進機構関係規定について 2 平成 26 年度第 7 回教育研究評議会について

会議名称	第 10 回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成 27 年 1 月 7 日(水)13:30～15:00
	審議事項	1 産学連携学会第 13 回大会について 2 産学連携学会北海道支部イベントについて
	報告事項	1 平成 26 年度第 8 回教育研究評議会について

会議名称	第 11 回社会連携推進センター運営会議
開催状況	日 時 平成 27 年 2 月 9 日(月)13:30~14:30
	審議事項 1 第 3 期中期目標・中期計画及びロードマップについて
	報告事項 1 平成 26 年度第 9 回教育研究評議会について

会議名称	第 12 回社会連携推進センター運営会議
開催状況	日 時 平成 27 年 3 月 4 日(水)13:30~14:30
	審議事項 1 平成 26 年度 CRC 附属施設等運営費及び寄附金の支出状況について
	2 次年度について
	3 全学説明会用資料について
	報告事項 1 「地域貢献の重点化」に係る学長打合せ結果について
	2 平成 26 年度第 10 回教育研究評議会について

9) 平成 26 年度 活 動 日 誌

凡 例

○	学 内
◆	学 外
☆	来訪者

- 4 / 10 (木) ○第 1 回社会連携推進センター運営会議
- 4 / 16 (水) ○北見工業大学社会連携推進センター推進協議会 平成 26 年度総会
- 5 / 7 (水) ○第 2 回社会連携推進センター運営会議
- 5 / 8 (木) ◆平成 26 年度北見地域企業立地促進協議会総会
- 5 / 13 (火) ◆科学技術・学術審議会産業連携・地域支援部会イノベーション人材作業部会
(第 8 回) (東京)
- 5 / 14 (水) ◆平成 26 年度第 1 回 HiNT 運営協議会(札幌市)
- 5 / 16 (金) ◆第 29 回 2014 オホーツク「木」のフェスティバル
- 5 / 20 (火) ◆北見市産学官連携推進協議会 平成 26 年度総会
- 5 / 22 (木) ◆市町村訪問(興部町、雄武町)
- 5 / 26 (月) ◆オホーツク产学研融合センター運営委員会
- 5 / 27 (火) ◆産業クラスター研究会オホーツク平成 26 年度定期総会
◆市町村訪問(西興部村、湧別町)
- 5 / 28 (水) ◆市町村訪問(遠軽町、滝上町)
- 5 / 30 (金) ◆市町村訪問(佐呂間町、紋別市)
- 6 / 1 (日) ◆NHK 大学ロボコン(東京)
- 6 / 3 (火) ◆市町村訪問(斜里町、清里町、小清水町)
- 6 / 4 (水) ○第 3 回社会連携推進センター運営会議
- 6 / 6 (金) ◆医工連携研究会総会
◆市町村訪問(網走市、大空町)
- 6 / 9 (月) ◆市町村訪問(美幌町、訓子府町)
- 6 / 10 (火) ◆国立大学法人共同研究センター専任教員会議幹事会(秋田)
- 6 / 11 (木) ◆市町村訪問(津別町、置戸町)
- 6 / 12 (木) ◆コラボ产学研第 6 回本部通常総会・記念講演会
- 6 / 18 (水) ◆北見市中小企業振興審議会
- 6 / 25 (水) ◆产学研連携学会第 12 回大会(長野)
- 6 / 29 (日) ◆おけと夏まつり(置戸町)
- 7 / 2 (水) ○第 4 回社会連携推進センター運営会議
- 7 / 3 (木) ◆科学技術・学術審議会産業連携・地域支援部会イノベーション人材作業部会
(第 9 回) (東京)
- 7 / 9 (水) ◆テクノトランスマート in かわさき 2014(神奈川)
- 7 / 19 (金) ◆第 61 回北見ぼんちまつり舞踊パレード
◆オホーツクまるごと市(網走市)
- 7 / 24 (木) ◆北洋銀行ものづくりテクノフェア 2014(札幌)
- 7 / 26 (土) ○第 1 回オホーツク圏観光情報学懇談会
- 7 / 28 (月) 平成 26 年度北海道地域支援機関等連携会議

- 8 / 1 (金) ○第5回社会連携推進センター運営会議
- 8 / 21 (木) ◆第12回全国高専テクノファーラム in Sapporo(札幌市)
- 8 / 28 (木) ◆第27回国立大学法人共同研究センター専任教員等会議(秋田)
- 9 / 1 (月) ○第6回社会連携推進センター運営会議
- 9 / 4 (木) ◆インフォメーションバザール in Tokyo 2014(東京)
- 9 / 7 (日) ◆第35回ふるさと産業まつり(清里町)
- 9 / 8 (月) ◆北海道地域3大学2公設試新技術説明会(東京)
- 9 / 11 (木) ◆イノベーション・ジャパン2014(東京)
- 9 / 17 (水) ◆第4回URAシンポジウム(札幌)
- 9 / 18 (木) ◆スーパー連携大学院共同研究事業委員会・地域コア運営会議合同会議(秋田)
- 9 / 19 (金) ◆スーパー連携大学院地域フォーラム(秋田)
- 9 / 25 (木) ○第26回国立大学法人共同研究センター長等会議
- 10 / 1 (水) ○第7回社会連携推進センター運営会議
- 10 / 6 (月) ◆観光ホスピタリティ向上セミナー
- 10 / 10 (金) ○第6回北見工業大学・江原大学ジョイントシンポジウム
- 10 / 20 (月) ◆アカデミックフォーラム(東京)
◆コラボ産学官設立10周年記念フォーラム(東京)
- 10 / 21 (火) ◆朝日ビジネスマッチング2014(東京)
- 11 / 4 (火) ○第8回社会連携推進センター運営会議
- 11 / 5 (水) ◆メッセナゴヤ2014(愛知)
- 11 / 6 (木) ◆ビジネスEXPO「第28回北海道技術・ビジネス交流会(札幌市)
◆シーズ・ニーズマッチングフェアWith金融機関(札幌市)
- 11 / 12 (水) ◆アグリビジネス創出フェア2014(東京)
- 11 / 14 (金) ◆産学連携学会平成26年度シンポジウム(東京)
- 11 / 19 (水) ◆北見市中小企業振興審議会
- 11 / 21 (金) ○平成26年度産学官連携推進員・協力員合同会議
- 11 / 28 (金) ◆2014アグリビジネス創出フェアin Hokkaido(札幌市)
◆オホーツク産学官融合センター運営委員会
- 12 / 2 (火) ○第9回社会連携推進センター運営会議
- 12 / 3 (水) ◆北海道産学官プラットフォーム in 釧路(釧路市)
- 12 / 4 (木) ○平成26年度北見工業大学公開講座
- 12 / 9 (火) ◆平成26年度全道産学官ネットワーク推進協議会(札幌市)
- 12 / 10 (水) ◆網走市地域産業活性化協議会(網走市)
- 1 / 7 (水) ○第10回社会連携推進センター運営会議
- 1 / 14 (水) ◆地域を彩る食物語
- 1 / 21 (水) ◆北海道地域3大学1高専1公設試新技術説明会(札幌)
- 1 / 30 (金) ◆平成27年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」及び「大学教育再生加速プログラム(AP)事業説明会(東京)
- 2 / 4 (水) ◆平成26年度大学-JST意見交換会
- 2 / 9 (月) ○第11回社会連携推進センター運営会議

◆医工連携フォーラム・市民講座

- 2 / 23 (月) ○産学連携学会北海道支部セミナー
- 3 / 4 (水) ○第 12 回社会連携推進センター運営会議
- 3 / 6 (金) ◆国立大学法人共同研究センター西日本ブロック専任教員会議(島根)
- 3 / 10 (火) ◆北海道地域中規模大学知財 NW、医歯食工連携 NW(福岡)
- 3 / 20 (金) ◆ひとを創る。ひとが創る。地域創生フォーラム(東京)
- 3 / 21 (土) ○オホーツク医学大会
- 3 / 26 (木) ◆HiNT 第 3 回運営協議会(札幌市)
- 3 / 27 (金) ◆産学連携学会学金連携システム研究会第 13 回研究会(東京)

2. 付録

- ・センター関連規程
- ・技術相談申込書

■ 社会連携推進センター関連の規程■

1. 北見工業大学社会連携推進機構規程
2. 北見工業大学社会連携推進センター要項
3. 北見工業大学社会連携推進センター利用内規
4. 北見工業大学研究推進機構規程
5. 北見工業大学社会連携推進センター产学研官連携推進員要項
6. 北見工業大学社会連携推進センター产学研官連携推進協力員内規

規程の詳細につきましては、本学ホームページご覧ください。

<http://www.kitami-it.ac.jp/>

平成 年 月 日

所属 :

役職 :

氏名 :

住所 : 〒

TEL :

FAX :

技 術 相 談 申 込 書

〈相談事項〉

〈 申込書送付先 〉

〒090-0013 北海道北見市柏陽町603番地2

国立大学法人 北見工業大学 社会連携推進センター

TEL : 0157-26-4161

FAX : 0157-26-4171

E-mail : center@crc.kitami-it.ac.jp



国立大学法人 北見工業大学 社会連携推進機構 社会連携推進センター

〒090-0013 北海道北見市柏陽町 603-2 TEL : 0157-26-4161 FAX : 0157-26-4171 E-mail : center@crc.kitami-it.ac.jp